

# 阿賀町学校施設長寿命化計画

【 改 定 】

令和3年3月（策定）

令和7年3月（改定）

阿 賀 町



# 目 次

<b>第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等</b>	<b>1</b>
1.1 計画の背景・目的	1
1.2 位置づけ	2
1.3 計画期間	2
1.4 対象施設	2
<b>第2章 上位・関連計画の整理</b>	<b>3</b>
2.1 上位・関連計画の概要	3
2.2 上位・関連計画を踏まえた学校施設の目指すべき姿	6
<b>第3章 学校施設の全体把握</b>	<b>7</b>
3.1 学校施設の運営状況・活用状況の実態	7
3.2 学校施設の状況等を踏まえた課題の整理	21
<b>第4章 学校施設の老朽化状況の実態</b>	<b>22</b>
4.1 構造躯体の健全性	22
4.2 構造躯体以外の劣化状況等	22
4.3 健全性及び劣化状況等の評価結果	23
4.4 学校施設の改修履歴等の状況	24
4.5 劣化を踏まえた課題の整理	38
<b>第5章 長寿命化による維持・更新コストの把握</b>	<b>39</b>
5.1 将来の維持・更新コスト	39
<b>第6章 学校施設整備の基本的な方針等</b>	<b>42</b>
6.1 学校施設の長寿命化計画の基本方針	42
6.2 学校施設の規模・配置計画等の方針	42
6.3 改修等の基本的な方針	43
<b>第7章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等</b>	<b>44</b>
7.1 改修等の整備水準	44
7.2 維持管理の項目・手法等	46
<b>第8章 長寿命化の実施計画</b>	<b>47</b>
8.1 改修等の優先順位づけと実施計画	47
8.2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	48
<b>第9章 長寿命化計画の継続的運用方針</b>	<b>50</b>
9.1 情報基盤の整備と活用	50
9.2 推進体制等の整備	50
9.3 フォローアップ	50



# 第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

## 1.1 計画の背景・目的

### (1) 背景

- 本町では、「第3次阿賀町総合計画」(令和7~16年度)とリンクする内容で、阿賀町教育大綱を定めており、町の基本理念『豊かな自然・かがやく文化・みんなで築く安心の町』のもと、教育が目指す町の将来像である「文化があふれるまち」「やすらぎのあるまち」を実現するため、上記6つの基本方針を掲げて取り組みます。
  - 学校教育の充実
  - 教育環境の整備
  - 生涯学習の推進
  - 文化活動の持続化と地域文化の伝承と継承
  - 運動習慣づくりの推進、町民の健康増進
  - 青少年の育成
- 2017(平成29)年3月に策定、2022(令和4)年3月に改訂した「阿賀町公共施設等総合管理計画」(以下、「総合管理計画」という。)によると、本町の教育施設は、町有公共施設のうち25.1%を占め、延床面積は45,718.24㎡を有しています。
- 学校施設は、老朽化が進むにつれ、更新需要が高まる中、国や地方自治体の財政は厳しく、従来の整備方法では対応が困難となっていく見込みです。このため、文部科学省は、全国の教育委員会に対し、2020(令和2)年度までに公立学校施設に係る個別施設計画を策定し、学校施設の改修等について計画的に取り組むよう求めています。2022(令和4)年4月1日時点で98%の自治体が策定を完了しています。
- 本町においても、学校施設の老朽化に伴い維持・更新が求められる一方で、人口減少や少子高齢化の進展による社会構造の変化に伴い、財政状況はより厳しくなると予想されます。また、児童生徒数の減少により、学校が小規模化するなど教育環境も大きく変化しています。
- こうした背景から、学校施設を可能な限り長期間使用し、施設整備に係るコストを抑制することを目標とした学校施設の長寿命化や必要に応じて減築等の検討を行うことが求められます。

### (2) 目的

- 阿賀町学校施設長寿命化計画(以下、「本計画」という。)は、総合管理計画を推進するため、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図るとともに、今後発生する修繕工事の内容や時期、費用等を勘案しながら、長寿命化計画を定めることにより町の学校施設の維持管理・更新を推進することを目的とします。

## 1.2 位置づけ

- 本計画は、国の「インフラ長寿命化基本計画」に規定される個別施設計画に位置づけられるものです。

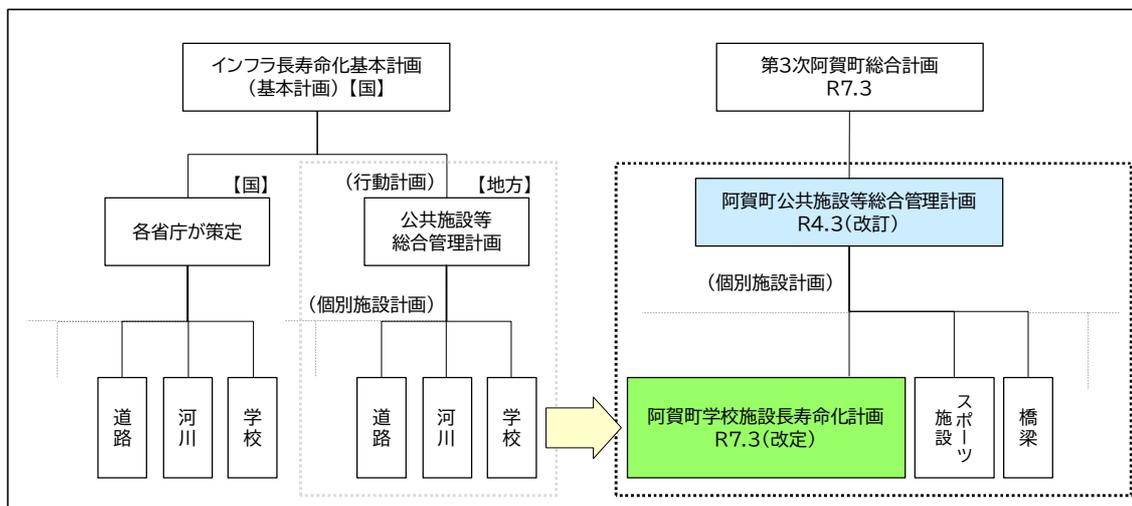


図 1-1 本計画の位置づけ

## 1.3 計画期間

- 本計画の計画期間は、総合管理計画の計画期間を踏まえ、2021（令和 3）年度から 2035（令和 17）年度までの 15 年間とします。なお、維持・更新コストの試算期間は 40 年間とします。

計画期間：2021(令和 3)年度から 2035(令和 17)年度までの 15 年間

- 本計画は、上位計画等の見直しや社会情勢の変化などの状況に応じて、適宜見直しを行います。

## 1.4 対象施設

- 本計画の対象施設は、本町が所有する学校教育係施設（小学校 3 校、中学校 2 校、学校給食調理場 2 箇所）の計 7 施設）とします。

表 1-1 対象施設

	施設数	棟数（棟）
小学校	3	10
中学校	2	5
学校給食調理場	2	2
計	7	17

注）三川小学校と三川中学校は、校舎を共有しているので実際は 15 棟となります

## 第2章 上位・関連計画の整理

### 2.1 上位・関連計画の概要

- 本町の上位計画及び関連計画における学校施設の整備等に関する事項を基本として、学校施設の目指すべき姿を示します。参照する計画は、以下のとおりです。

#### 《上位計画》

- 第3次阿賀町総合計画（令和7年3月）
- 阿賀町教育大綱（令和7年4月）
- 阿賀町教育の推進目標（令和5年度）

#### 《関連計画》

- 阿賀町地域防災計画 避難計画・資料編

#### 《上位計画》

### 第3次阿賀町総合計画 令和7年3月

#### 【基本構想】

計画期間：2025年度（令和7年度）～2034年度（令和16年度）10年間

基本理念：豊かな自然・かがやく文化 みんなで築く安心のまち

#### 【基本目標・基本施策】 <学校施設整備に関する項目の抜粋>

基本目標2－基本施策1 学校教育の充実

4. 教育環境の整備（デジタル化の推進）

〔施策の展開〕

- ① 新たな時代を担う人材の教育として、また多様な子供たち一人ひとりに最適化された教育として、資質・能力が一層確実に育成できるよう取組を行います。
  - ・教職員のデジタル機器を活用した授業力向上（学習指導センターの学校訪問指導、授業づくり研修）。
  - ・ICT機器等の積極的な導入と計画的な更新を行います。

5. 教育環境の整備（学校施設の整備）

〔施策の展開〕

- ① 各小中学校大規模改修事業及び給食センターの統合整備、学校体育館の空調整備
  - ・給食センターの統合・整備の推進
  - ・学校施設の劣化対策及びライフラインの更新等

## 阿賀町教育の大綱 令和7年4月

### 【 基本目標 】

未来を拓く人を育み、文化・スポーツを通じた豊かな生活を実現する

### 【 大綱の基本方針 】 <学校施設整備に関する項目の抜粋>

- 学校教育の充実  
〔確かな学力の向上〕
  - ・ ICT を活用した授業づくりを進め、授業力向上を目指します
- 教育環境の整備  
〔デジタル化の推進〕
  - ・ ICT 機器等の積極的な導入と計画的な更新を進めます〔学校施設整備〕
  - ・ 各小中学校の大規模改修事業を計画的に進めます
  - ・ 学校給食センターの統合整備を進めます
- 生涯学習の推進
- 文化活動の持続化と地域文化の伝承と継承
- 運動習慣づくりの推進、町民の健康増進
- 青少年の育成

## 阿賀町の教育 令和5年度

### 【 基本目標 】

地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が一体となって教育力の向上に努める

### 【 阿賀町教育の推進内容 】 <学校施設整備に関する項目の抜粋>

- (1) 児童生徒が安心・安全に学べる学習環境づくりの実現
- ① 老朽化及び安全性等に対応した各学校施設・設備の修繕及び工事を計画的に実施し「安全な教育環境」の充実を図る。
    - ・ 学校施設長寿命化計画に沿って学校施設の大規模改修工事を実施する。
    - ・ 学校施設修繕。
  - ③ 急速に進化するA I、I C Tに対応した学校教育におけるI C T環境の整備を進める。
    - ・ 電子黒板及びタブレット端末を活用した新たな学び方、教え方の推進
    - ・ I C T教育関連備品の充実
    - ・ 校務支援システム導入に係る研修の推進

《関連計画》

阿賀町洪水ハザードマップ

【 阿賀町地域避難所 】

- ・広域避難所として位置づけされている小学校及び中学校の体育館は、以下のとおりとなっています。

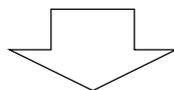
施設名	洪水深ランク
阿賀津川中学校体育館	0.5～3.0m
津川小学校体育館	0.5～3.0m
上川小学校体育館	—
三川小中学校体育館	0.5～3.0m

## 2.2 上位・関連計画を踏まえた学校施設の目指すべき姿

【上位・関連計画等のキーワード】

【社会的ニーズからのキーワード】

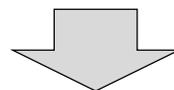
【学校施設の目指すべき姿】



- ・学校のICT化
- ・児童生徒及び教職員へのタブレット端末1人1台の整備
- ・情報セキュリティの強化

- ・学校統合の検討
- ・少人数学級の解消
- ・SDGsへの対応

- ・老朽化した施設の改築・改修
- ・防災機能の強化
- ・誰もが利用しやすい環境整備
- ・食育を通じた教育の向上



### 高度情報化に対応した学校づくり

- 教育環境に求められる機能は、時代の変化に伴い多様化します。文部科学省では「GIGA スクール構想」を打ち出しており、高速大容量の通信ネットワークの構築と公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国で実現させる事業が進み始めています。こうした動きに対応するため、ICT教育を推進し、多様な学習活動のニーズに対応できる学校施設を目指します。

### 社会情勢の変化に適応した学校づくり

- 児童生徒数の減少により、学校が小規模化するなど、教育環境が大きく変化しつつあります。今後も児童生徒数の減少は予想されており、子ども同士の間関係の構築や社会性を身に付ける場として、環境の変化に的確に対応できる学校づくりを検討します。
- 持続可能な社会を形成していく上で、環境負荷の低減を図り、環境教育の場となるエコスクールの整備が求められています。

### 安全で教育環境が充実した学校づくり

- 老朽化した学校施設等の維持保全や更新等には多大な財政負担が伴います。今後の学校施設の維持保全については、限りある財政状況のもとで、各学校施設・設備の修繕及び工事を計画的に実施し、ライフサイクルコストの縮減に努めます。
- 学校は、災害時における避難施設としても利用されることがあり、児童生徒だけでなく、職員や地域住民の利用にも配慮した学校施設を目指します。
- 地産・地消を取り入れ、安全かつバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健全育成を目指します。

## 第3章 学校施設の全体把握

### 3.1 学校施設の運営状況・活用状況の実態

#### (1) 学校を取り巻く状況

##### ① 人口の状況

- 本町の令和2年（国勢調査）における総人口は9,965人となっています。平成2年からの推移をみると、一貫して減少を続けています。
- 本町の令和2年改訂人口ビジョンでは、2045（令和27）年の人口を5,065人と推計しており、2020（令和2）年以降も減少しつづけると推計されています。
- 年齢3区分別の人口及び割合をみると、令和2年では、年少人口673人（6.8%）、生産年齢人口4,346人（43.6%）、高齢者人口4,944人（49.6%）となっています。平成2年の状況と比較すると、年少人口は1,850人減（7.6ポイント減）、生産年齢人口は6,525人減（18.3ポイント減）、高齢者人口は781人増（25.9ポイント増）と変化しており、少子高齢化が進行しています。
- 将来人口の見通しは、全体人口の減少は進んでいきますが、年少人口割合はおおむね7%前後で推移するとしております。

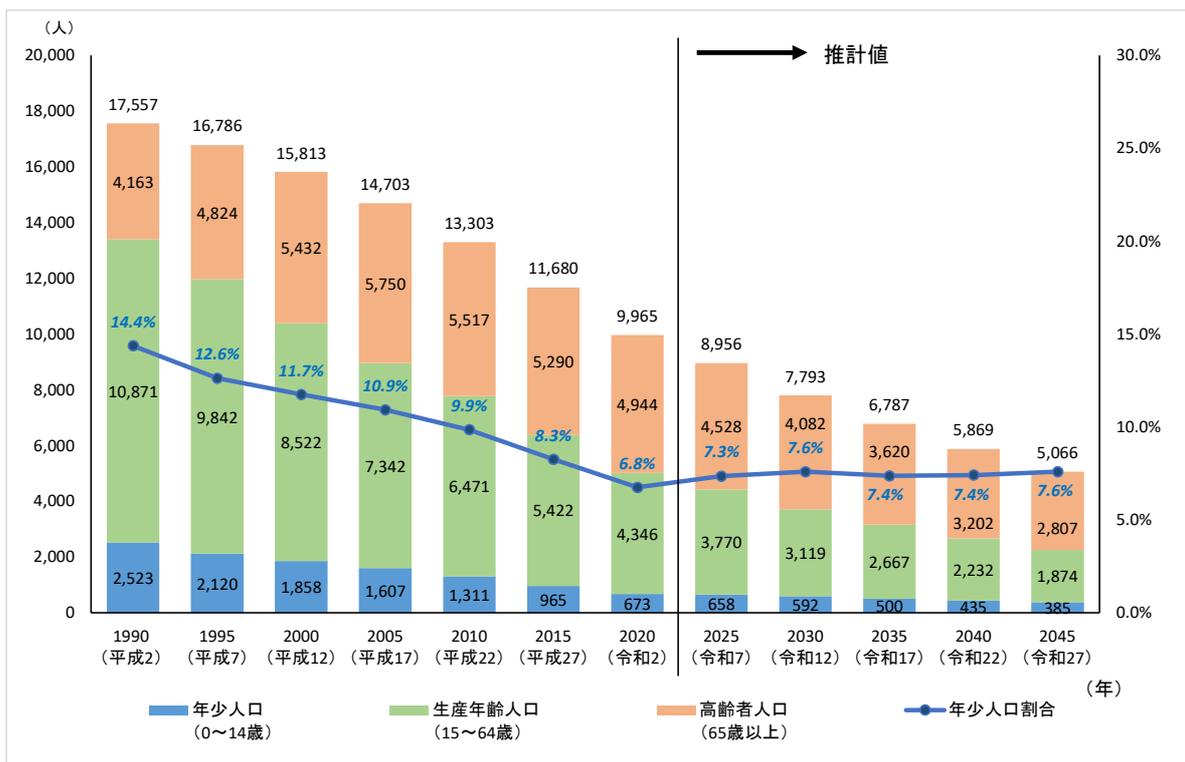


図3-1 本町の年齢3区分別人口の将来見通し

資料：国勢調査、令和2年改訂人口ビジョン

注) 1990(平成2)年から2000(平成12)年までは、津川町、鹿瀬町、上川村、三川村の合計値となっています

## ② 財政の状況

### ■ 歳入及び歳出の状況

- 2022（令和4）年度の決算額は、歳入が約135億円、歳出が約128億円となっています。
- 歳入の一般財源（町税、地方交付税、その他一般財源）は、緩やかな減少傾向にあります。特定財源では国庫支出金や都道府県支出金が減少傾向にある反面、その他特定財源の増加がみられます。
- 歳出の義務的経費（人件費、公債費、扶助費）は、緩やかな減少傾向にあります。その他経費の内訳の推移をみると、変動しつつも減少傾向にあります。積立金は近年増加基調にあり、繰出金は横這いの状態となっています。
- 今後、高齢化等の進行により、扶助費の増加が予想される中で、一般財源の増加が見込めないことから、公共施設等の整備に要する経費である普通建設事業費の拡大を維持し続けることが難しくなると考えられます。



図3-2 歳入額（普通会計）の推移



図3-3 歳出額（普通会計）の推移

資料：阿賀町決算書

## ■学校施設関連経費

○ 学校施設における施設関連経費の過去10年間の平均は約0.96億円/年です。

表3-1 学校施設関連経費の推移

(単位：千円)

	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	平均
新築・改築費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
改修	5,246	3,274	4,472	0	17,934	32,508	0	4,719	115,644	101,019	28,482
その他施設整備費	0	59,089	0	0	19,678	0	70,070	9,571	0	0	15,841
維持管理費	4,233	5,431	4,946	5,300	5,062	4,166	4,329	4,416	3,980	5,027	4,689
光熱水費・委託費	39,706	38,099	36,416	38,321	38,517	27,754	29,721	33,469	42,799	41,826	36,663
経常修繕費	4,903	5,759	12,289	5,288	7,513	8,354	13,266	9,647	13,274	21,116	10,141
	54,088	111,652	58,123	48,909	88,704	72,782	117,386	61,822	175,697	168,988	95,815

施設整備費：校舎、体育館、給食室の整備にかかる経費

その他整備費：プール、グラウンド、共用設備（受変電、自家発、受水、排水）の整備にかかる経費

維持修繕費：日常にかかった維持管理にかかる経費

委託費：警備費、エレベーター、電気設備の点検業務にかかる経費

光熱水費：電気代、ガス代、上下水道代、燃料費

経常修繕費：各学校内で対応する修繕や少額の改修及び部品交換など、日常的に発生する軽微な不具合対応の見込み額

### ③ 児童生徒及び学級数の変化

#### ■小学校

- 2024（令和6）年度の児童数及び学級数をみると、普通学級は189人、16学級、特別支援学級は32人、7学級となっています。
- 2019（令和元）年度以降の推移をみると、普通学級の児童数は2019（令和元）年度以降減少を続けていますが、近年では減少幅が小さくなりつつあります。
- 特別支援学級の児童数は、2019（令和元）年度以降おおむね横ばいの状態で推移しています。
- 普通学級の1学級あたり児童数をみると、徐々に減少しています。
- 将来の見込みをみると、普通学級の児童数は当面横ばいの状態で推移が見込まれていますが、2028（令和10）年度以降は減少が見込まれています。また、学級数は7学級のまま推移すると見込まれており、1学級あたりの児童数は減少すると見込まれています。

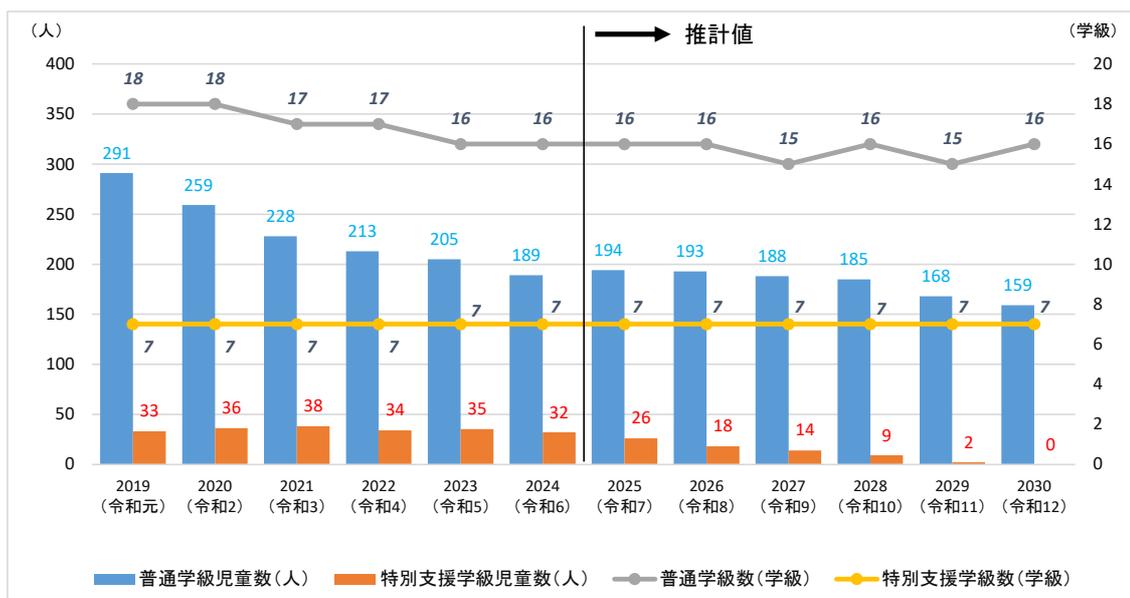


図3-4 児童数及び学級数の推移

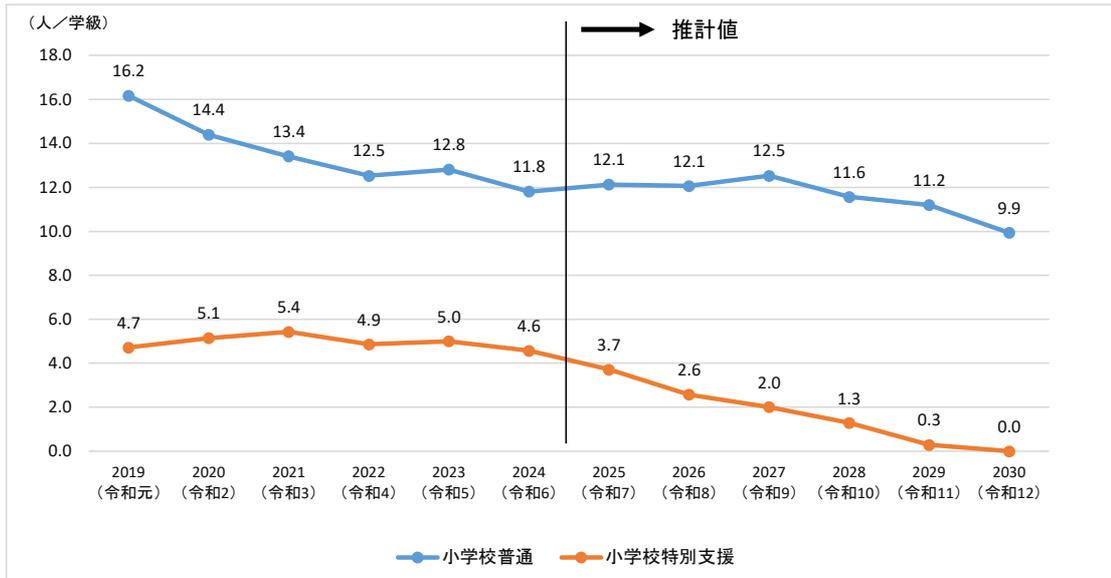


図3-5 1学級あたりの児童数の推移

表3-2 学校別児童数及び学級数の推移

各年度5月1日現在

校名	区分	実績値 (年度)						推計値 (年度)						
		2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)	
津川小学校	普通	児童数 (人)	144	114	104	96	92	82	81	87	87	85	76	77
		学級数 (学級)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特別支援	児童数 (人)	17	18	16	17	19	16	15	10	9	6	1	0
		学級数 (学級)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
上川小学校	普通	児童数 (人)	62	58	47	46	43	39	37	31	30	28	27	24
		学級数 (学級)	複式6	複式6	5	5	4	4	4	4	3	4	3	4
	特別支援	児童数 (人)	7	8	10	7	6	5	4	4	2	1	0	0
		学級数 (学級)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
三川小学校	普通	児童数 (人)	85	87	77	71	70	68	76	75	71	72	65	58
		学級数 (学級)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	特別支援	児童数 (人)	9	10	12	10	10	11	7	4	3	2	1	0
		学級数 (学級)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	普通	児童数 (人)	291	259	228	213	205	189	194	193	188	185	168	159
		学級数 (学級)	18	18	17	17	16	16	16	16	15	16	15	16
	特別支援	児童数 (人)	33	36	38	34	35	32	26	18	14	9	2	0
		学級数 (学級)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

資料：学校基本調査，阿賀町推計児童数見込み

表3-3 学校別1学級あたりの児童数の推移

各年度5月1日現在  
(単位：人/学級)

校名	区分	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)
津川小学校	普通	24.0	19.0	17.3	16.0	15.3	13.7	13.5	14.5	14.5	14.2	12.7	12.8
	特別支援	5.7	6.0	5.3	5.7	6.3	5.3	5.0	3.3	3.0	2.0	0.3	0.0
上川小学校	普通	10.3	9.7	9.4	9.2	10.8	9.8	9.3	7.8	10.0	7.0	9.0	6.0
	特別支援	3.5	4.0	5.0	3.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.0	0.5	0.0	0.0
三川小学校	普通	14.2	14.5	12.8	11.8	11.7	11.3	12.7	12.5	11.8	12.0	10.8	9.7
	特別支援	4.5	5.0	6.0	5.0	5.0	5.5	3.5	2.0	1.5	1.0	0.5	0.0
合計	普通	16.2	14.4	13.4	12.5	12.8	11.8	12.1	12.1	12.5	11.6	11.2	9.9
	特別支援	4.7	5.1	5.4	4.9	5.0	4.6	3.7	2.6	2.0	1.3	0.3	0.0

資料：学校基本調査，阿賀町推計児童数見込み

## ■中学校

- 2020（令和2）年度の生徒数及び学級数をみると、普通学級は121人、6学級、特別支援学級は22人、5学級となっています。
- 2014（平成26）年度以降の推移をみると、普通学級の生徒数は減少傾向が続いており、近年減少幅が拡大しています。学級数も生徒数の減少に伴い、減少が続いており、近年では6学級で推移しています。
- 特別支援学級の生徒数は、2022（令和4）年度まで増加しており、その後横這いの状態で推移しています。学級数は、2019（令和元）年度以降4～5学級で推移しています。
- 1学級あたりの生徒数についてみると、2020（令和2）年度以降増加を続けていましたが、2023（令和5）年度以降は減少に転じています。特別支援学級は2023（令和5）年度まで増加を続けていましたが、以降は減少に転じています。
- 将来の見込みをみると、普通学級は生徒数の減少傾向が続くものの、2027（令和9）年度以降は横ばいが続くと見込まれており、学級数もしばらくは6学級で推移すると見込まれています。また、特別支援学級は生徒数及び学級数ともに横這いの状況が続くと見込まれており、1学級あたりの生徒数も同様の見込みとなっています。

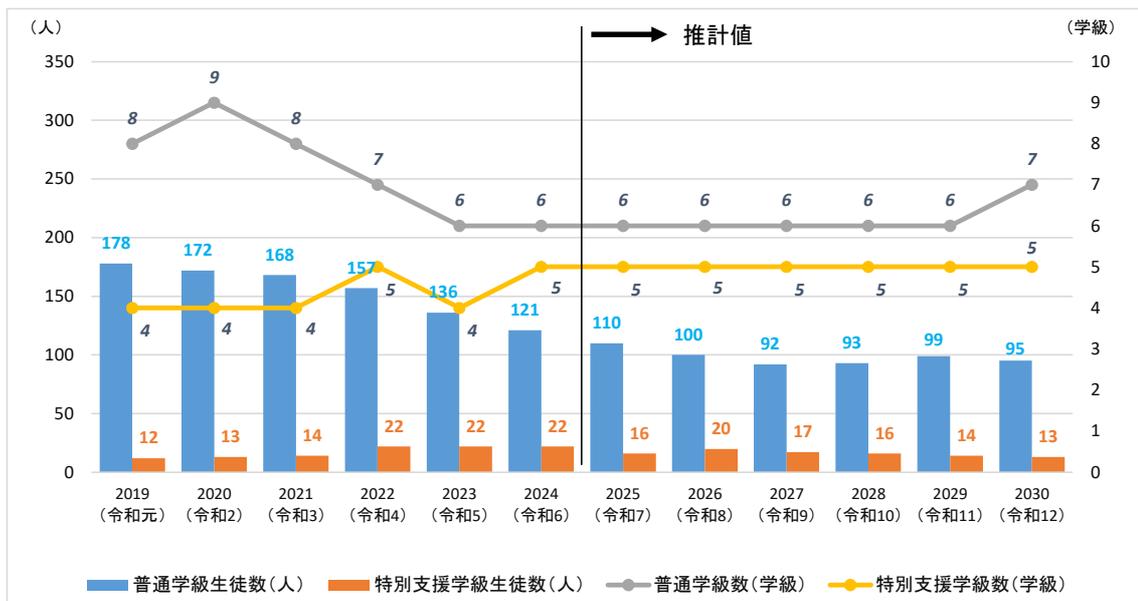


図3-6 生徒数及び学級数の推移

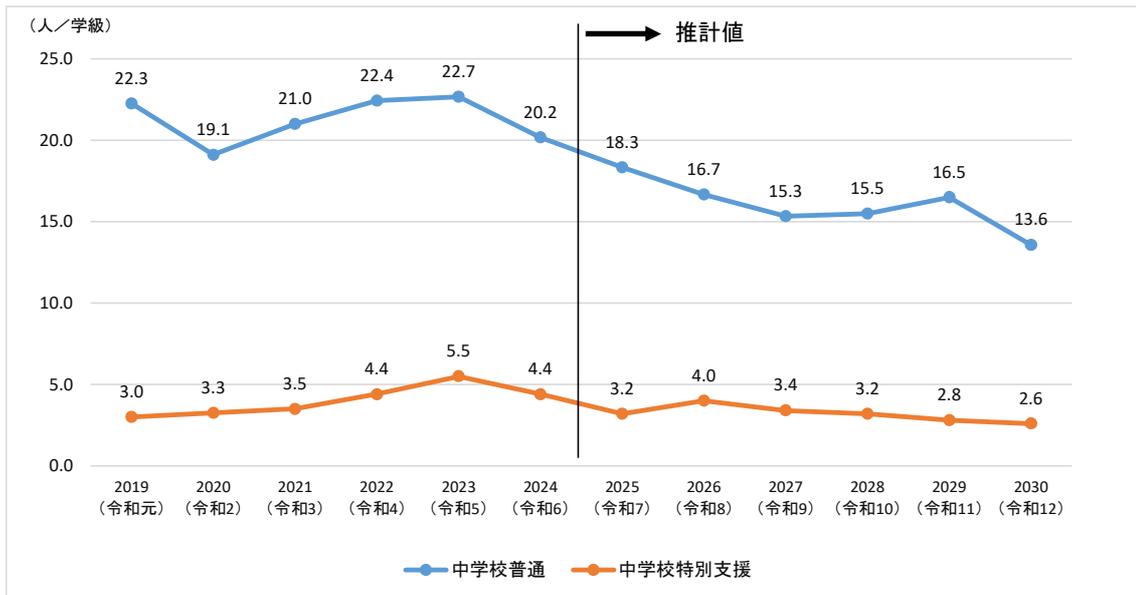


図3-7 1学級あたりの生徒数の推移

表3-4 学校別生徒数及び学級数の推移

各年度5月1日現在

校名	区分	区分	実績値 (年度)						推計値 (年度)					
			2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)
阿賀津川中学校	普通	生徒数 (人)	134	126	122	109	91	87	81	69	58	57	65	62
		学級数 (学級)	5	6	5	4	3	3	3	3	3	3	3	4
	特別支援	生徒数 (人)	4	6	10	17	17	17	11	13	9	11	11	10
		学級数 (学級)	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
三川中学校	普通	生徒数 (人)	44	46	46	48	45	34	29	31	34	36	34	33
		学級数 (学級)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	特別支援	生徒数 (人)	8	7	4	5	5	5	5	7	8	5	3	3
		学級数 (学級)	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2
合計	普通	生徒数 (人)	178	172	168	157	136	121	110	100	92	93	99	95
		学級数 (学級)	8	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	7
	特別支援	生徒数 (人)	12	13	14	22	22	22	16	20	17	16	14	13
		学級数 (学級)	4	4	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5

資料：学校基本調査，阿賀町推計生徒数見込み

表3-5 学校別1学級あたりの生徒数の推移

各年度5月1日現在  
(単位：人/学級)

校名	区分	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)
阿賀津川中学校	普通	26.8	21.0	24.4	27.3	30.3	29.0	27.0	23.0	19.3	19.0	21.7	15.5
	特別支援	2.0	3.0	5.0	5.7	5.7	5.7	3.7	4.3	3.0	3.7	3.7	3.3
三川中学校	普通	14.7	15.3	15.3	16.0	15.0	11.3	9.7	10.3	11.3	12.0	11.3	11.0
	特別支援	4.0	3.5	2.0	2.5	5.0	2.5	2.5	3.5	4.0	2.5	1.5	1.5
合計	普通	22.3	19.1	21.0	22.4	22.7	20.2	18.3	16.7	15.3	15.5	16.5	13.6
	特別支援	3.0	3.3	3.5	4.4	5.5	4.4	3.2	4.0	3.4	3.2	2.8	2.6

資料：学校基本調査，阿賀町推計生徒数見込み

## (2) 学校施設の保有量

### ① 築年別の保有棟数及び床面積

- 本計画の対象建物は、15棟、約21,296㎡あります。
- 新旧耐震基準別に割合をみると、新耐震基準は6棟(約40%)、約5,747㎡(約27%)、旧耐震基準は9棟(約60%)、約15,549㎡(約73%)となっており、旧耐震基準の建物が多くなっています。なお、旧耐震基準のすべての建物は、耐震改修事業が行われており、耐震強度に問題はありません。
- 年代別にみると、築30年以上の建物は、12棟(約71%)、約17,021万㎡(約80%)を占めています。このうち、更新の目安となる築50年以上の建物は、4棟(約27%)、約9,120㎡(約42%)となっています。

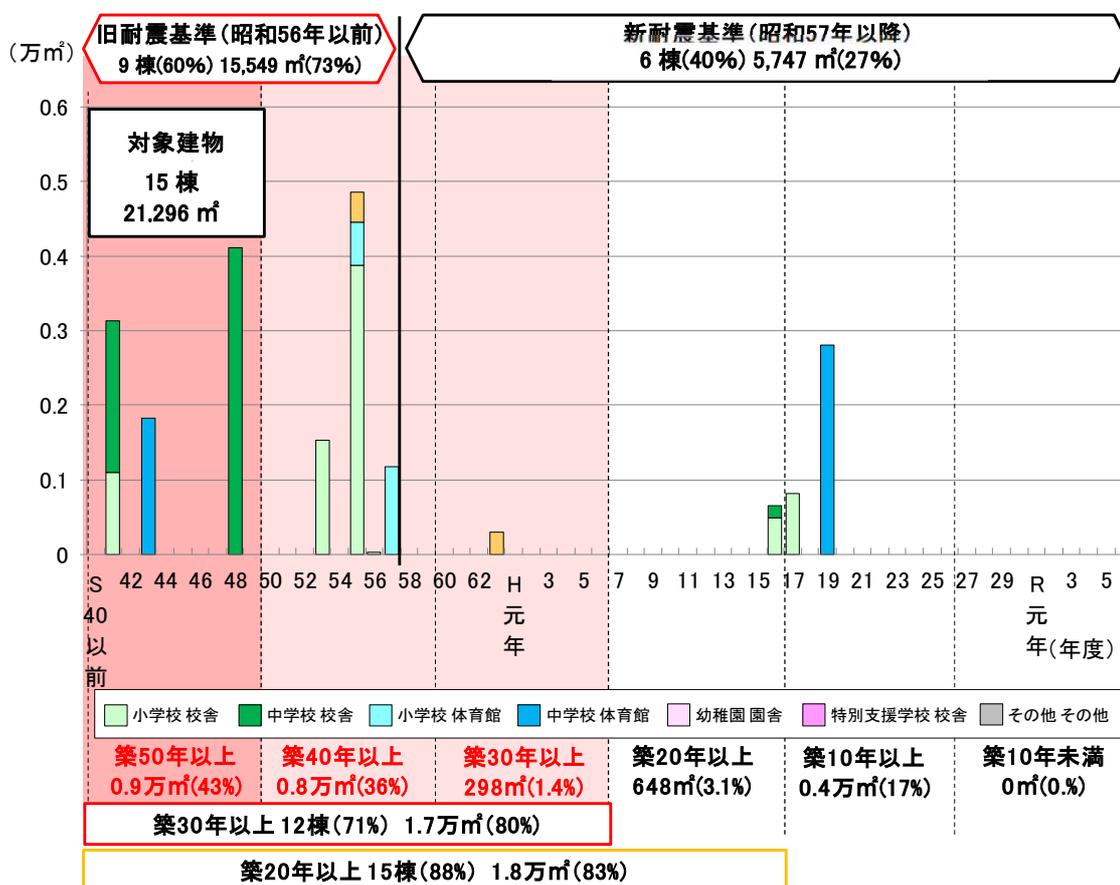


図3-8 計画対象施設の建築年別の状況

注) 三川小中学校では校舎を共有しており、台帳では別の建物扱いとなっていますが、実際は同一建物の階数で区分されています。そのため、台帳では17棟となっていますが、実際は15棟となります。

三川小学校：1F及び2Fの一部

三川中学校：3F及び2Fの一部

## ② 構造別保有棟数及び面積

### ■ 保有棟数

- 令和6年度版学校施設台帳から学校施設（校舎、屋内運動場、その他建物）と学校給食共同調理場を構造別にみた建物棟数の割合は以下のようになります。
- 校舎は、RC造（鉄筋コンクリート造）が12棟、S造（鉄骨造）が8棟、W造（木造）が3棟となっています。
- 屋内運動場は、RC造（鉄筋コンクリート造）が1棟、S造（鉄骨造）が4棟となっています。
- その他（教員住宅、倉庫等）は、W造（木造）が10棟となっています。
- 学校給食共同調理場は、RC造とW造（木造）が各1棟ずつとなっています。

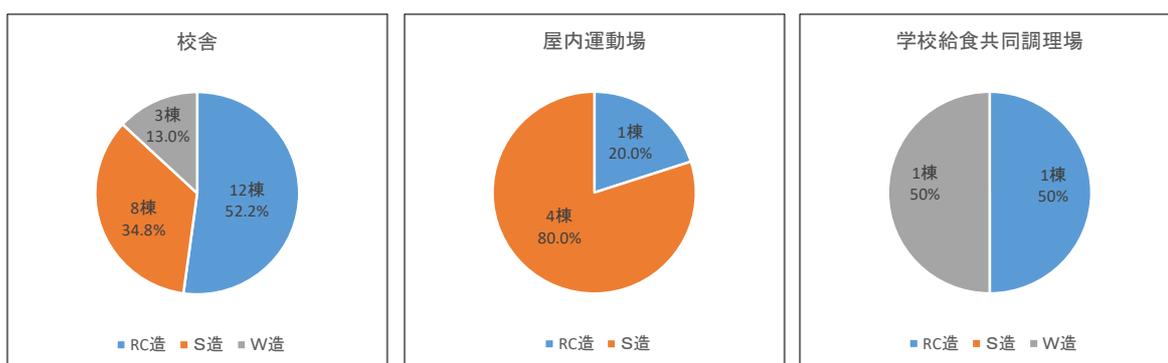


図3-9 構造別保有棟数の状況

表3-7 学校別構造別保有建物棟数の状況

単位：棟

学校名	校舎				屋内運動場				その他				合計
	RC造	S造	W造	計	RC造	S造	W造	計	RC造	S造	W造	計	
津川小学校	2	1	1	4	-	1	-	1	-	-	1	1	6
上川小学校	3	-	2	5	-	1	-	1	-	-	3	3	9
三川小学校	1	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4
阿賀津川中学校	3	2	-	5	1	1	-	2	-	-	3	3	10
三川中学校	3	2	-	5	-	1	-	1	-	-	3	3	9
合計	12	8	3	23	1	4	-	5	-	-	10	10	38

資料：令和6年度 学校施設台帳

※. 屋内運動場で、RC造とS造が混在している構造の場合は、面積が大きい方を採用しています。

表3-8 学校給食共同調理場別構造別保有建物棟数の状況

単位：棟

施設名	給食センター			
	RC造	S造	W造	計
津川学校給食センター	1	-	-	1
鹿瀬学校給食センター	-	-	1	1
合計	1	-	1	2

資料：令和6年度 学校施設台帳

■保有面積

- 令和6年度版学校施設台帳から学校施設（校舎、屋内運動場、その他）と学校給食共同調理場を構造別にみた延床面積の割合は以下のようになります。
- 校舎では、RC造（鉄筋コンクリート造）が約94%、屋内運動場ではS造（鉄骨造）が約96%でそれぞれ最も多くなっています。
- 学校給食共同調理場についてみると、RC造が約58%で最も多くなっています。

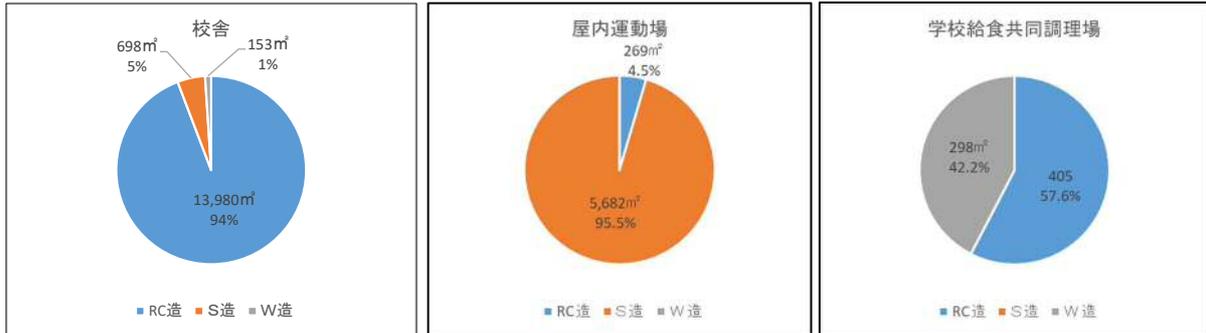


図3-10 構造別保有面積の状況

表3-9 学校別の構造別保有面積の状況

単位：㎡

学校名	校舎				屋内運動場				その他			
	RC造	S造	W造	計	RC造	S造	W造	計	RC造	S造	W造	計
津川小学校	3,874	37	40	3,951	66	1,108	-	1,174	-	-	190	190
上川小学校	2,353	-	113	2,466	90	486	-	576	-	-	503	503
三川小学校	1,093	484	-	1,577	-	-	-	-	-	-	-	-
阿賀津川中学校	4,009	131	-	4,140	113	2,710	-	2,823	-	-	292	292
三川中学校	2,651	46	-	2,697	-	1,378	-	1,378	-	-	332	332
合計	13,980	698	153	14,831	269	5,682	-	5,951	-	-	1,317	1,317

資料：令和6年度 学校施設台帳

※ 一部施設で構造別棟数ではS造となっているものの、構造別床面積ではRC造とS造になっているものがあります。これは、構造別棟数では主たる構造でカウントし、構造別床面積ではRC造とS造それぞれ面積をカウントしていることにより異なる数値となっています。

表3-10 学校給食共同調理場の構造別保有面積の状況

単位：㎡

施設名	給食センター			
	RC造	S造	W造	計
津川学校給食センター	405	-	-	405
鹿瀬学校給食センター	-	-	298	298
合計	405	-	298	703

資料：令和6年度 学校施設台帳

### (3) 学校施設の配置状況

#### ① 小学校

○ 本町の小学校の配置状況と小学校区は、以下のとおりです。

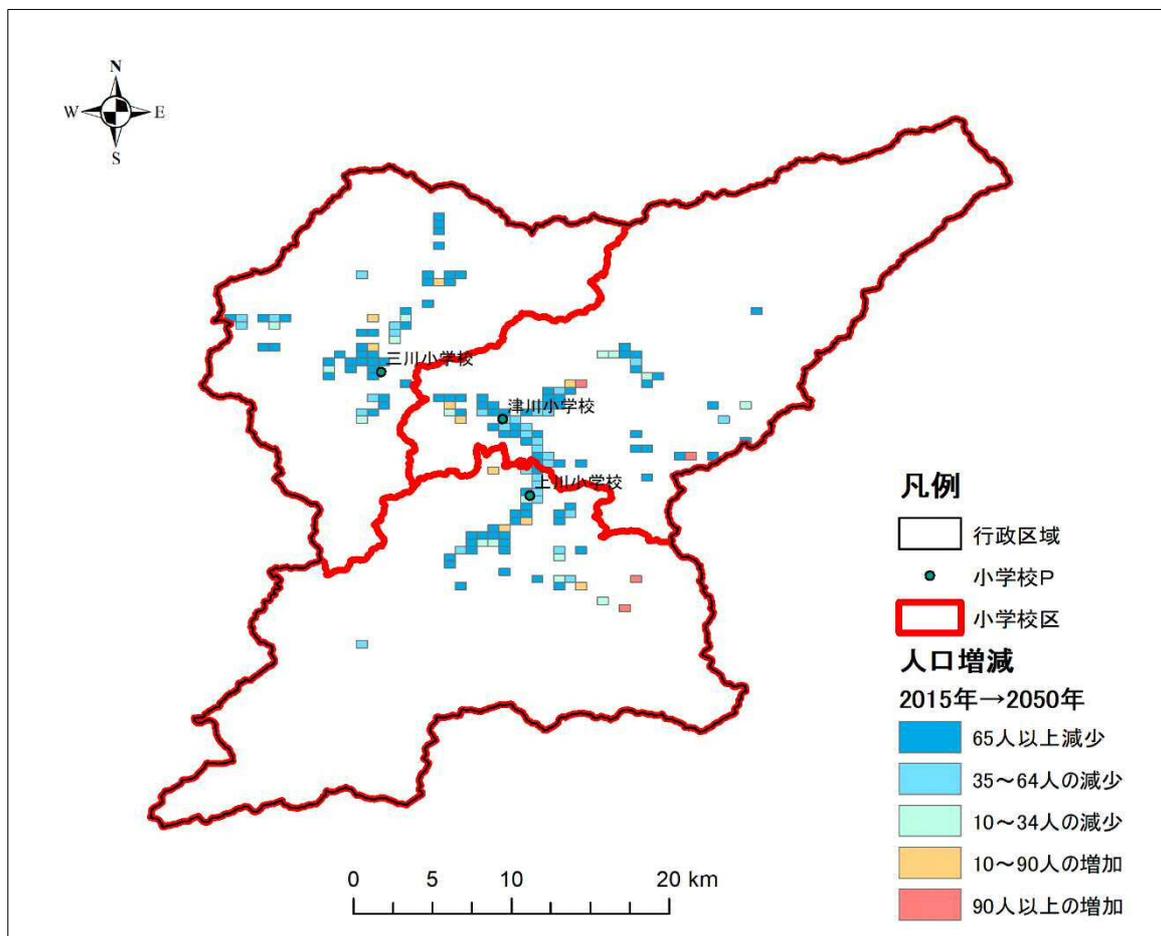


図3-11 小学校の位置及び学校区

資料：国土数値情報を基に作成

## ② 中学校

○ 本町の中学校の配置状況と中学校区は、以下のとおりです。

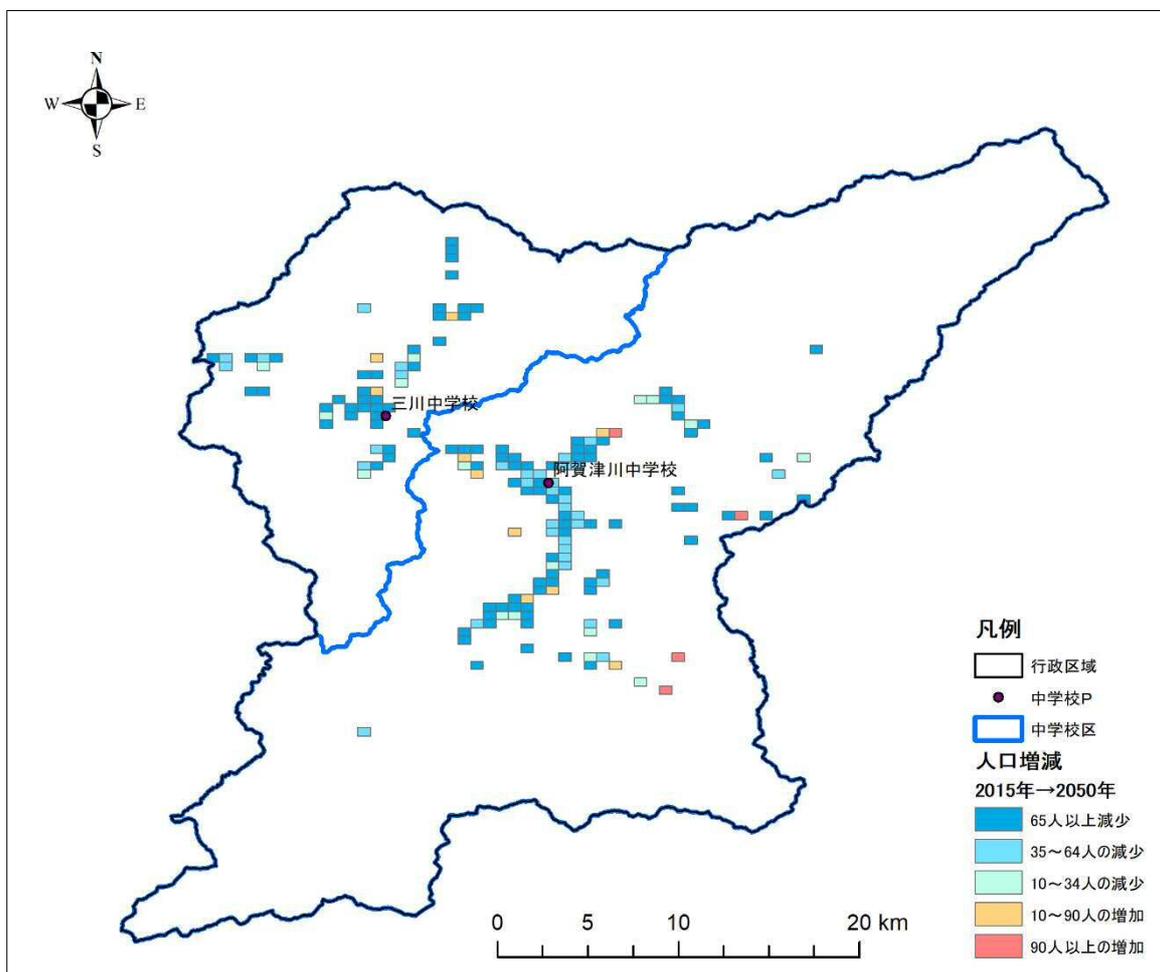


図3-12 中学校の位置及び学校区

資料：国土数値情報を基に作成

### ③ 保有教室の状況

#### ■小学校

- 令和6年度版学校施設台帳における学校別の保有教室の状況は以下のとおりです。
- 普通教室1室あたりの児童数（R6年度）をみると、最も高い小学校は津川小学校の10.9人で、次いで三川小学校の8.8人、上川小学校の6.3人が続いています。
- 特別教室は各学校でひと通り設置されていますが、三川小学校では三川中学校との共同利用となっているため、特別教室は少なくなっています。

表3-11 小学校の保有教室の状況

単位：室，人／室

学校名	普通教室	特別教室関係										R6 児童数	1教室 あたり 児童数
		理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	視聴 覚	コン ピユ ータ	図書 室	特別 活動	教育 相談		
津川小学校	9	1	-	1	1	1	1	-	1	2	-	98	10.9
上川小学校	7	1	-	1	1	1	-	-	1	4	1	44	6.3
三川小学校	9	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	79	8.8

資料：令和6年度 学校施設台帳

#### ■中学校

- 令和6年度版学校施設台帳における学校別の保有教室の状況は以下のとおりです。
- 普通教室1室あたりの生徒数（R6年度）をみると、三川中学校の7.8人、阿賀津川中学校の14.9人となっています。
- 特別教室は各学校でひと通り設置されていますが、三川中学校では三川小学校との共同利用となっています。

表3-12 中学校の保有教室の状況

単位：室，人／室

学校名	普通教室	特別教室関係										R6 生徒数	1教室 あたり 生徒数
		理科	音楽	美術	技術	家庭	視聴 覚	コン ピユ ータ	図書 室	特別 活動	教育 相談		
阿賀津川中学校	7	1	1	1	1	2	-	-	1	4	2	104	14.9
三川中学校	5	1	1	1	1	2	-	-	1	3	1	39	7.8

資料：令和6年度 学校施設台帳

#### ④ 避難所としての指定状況

- 地域防災計画における学校施設の避難施設は、下表のとおりです。
- 避難施設に指定されている学校は4校あり、いずれも体育館が対象となっています。

表3-13 避難施設に指定されている学校（体育館）施設一覧

地域	広域	施設名称	所在地
津川地域	○	阿賀津川中学校体育館	津川260
	○	津川小学校体育館	津川3234
上川地域	○	上川小学校体育館	両郷乙1552
三川地域	○	三川小中学校体育館	白崎2500-1

資料：災害ハザードマップより抜粋

## 3.2 学校施設の状況等を踏まえた課題の整理

- 学校施設の状況等を踏まえ、学校施設を取り巻く課題を整理します。

### **課題1 新しい教育指導への対応と高度情報化に適応できる学校のあり方の検討**

- 多くの学校施設は、建築当時の機能や性能を引き継いでおり、人口構造や社会情勢の変化に十分な対応ができていない状況が見受けられます。近年では学校施設においても多様な人々の利用を考えて、ユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化などが求められています。また、文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」の推進により、ICTなど高度情報化にも対応した学校づくりも求められています。
- 今後の学校施設のあり方は、新しい教育指導方針に適応することはもとより、高度情報化にも対応し、多様な学習活動のニーズに対応するための整備・改良が必要になります。

### **課題2 将来の子どもの数を意識した学校規模や配置の適正化**

- 少子化の進行に伴い、児童生徒数の減少が予測されているなかで、学校施設の統合が全国的に検討されています。本町においても学校の統合は進められており、学校数は減少しつつあります。今後も児童生徒数の動向を踏まえつつ、学校教育の活性化を図るとともに、子ども同士の人間関係の構築や社会への適応性を養うための場としての学校づくりが必要です。

### **課題3 財政的制約が進む中での学校長寿命化計画の推進**

- 本町の学校施設は、築40～50年の建物が間もなく更新の時期を迎え、多額の更新費用が必要となります。
- 財政状況をみると、歳入の自主財源比率は増えつつありますが、歳出では高齢化の進行に伴う扶助費の増加も見込まれ、更新費用を確保することが難しくなっていくことが予想されます。
- 学校施設の更新にあたっては、計画的に施設の長寿命化を図り、更新時期の集中を避ける必要があります。さらに、学校施設は学習の場であるとともに、避難施設としても利用されるため、不具合の発生を未然に防ぐための維持管理方法を確立し、計画的な長寿命化対策を検討する必要があります。

## 第4章 学校施設の老朽化状況の実態

### 4.1 構造躯体の健全性

- 長寿命化を図る場合には、建物の骨組みにあたる構造躯体の健全性を確認し、建物の長寿命化改修が可能かどうかの判断が重要となります。文部科学省の基準ではRC造の建物のコンクリート圧縮強度が 13.5N/mm<sup>2</sup> を基準として構造躯体の健全性を評価します。S造及び木造等の建物については、鉄骨の腐食状況を目視により確認し、長寿命化改修の可否を判断します。
- 基準以下となるものは「要調査」建物として整備実施段階において詳細な調査を実施し、最終的な長寿命化改修の可否を判断します。

### 4.2 構造躯体以外の劣化状況等

- 構造躯体以外の劣化状況等の把握は、劣化状況調査マニュアルに基づき、下表に示す部位・設備について実施しています。

表4-1 劣化状況調査の主な調査項目

部位・設備	主な調査項目
構造部	ひび割れ、さび汁、白華、鉄筋露出、欠損等
建築部位	
屋根・屋上	屋上床面のひび割れ・浮き・剥離・摩耗等、目地・シーリング材の損傷等、排水溝・排水口・雨樋のつまり等
外壁	外壁仕上材の剥落・白華・ひび割れ・浮き・さび・変形等、目地・シーリング材の損傷等
内部仕上	天井・壁の漏水跡、天井・壁・床の仕上材の浮き・たわみ・ひび割れ・剥落・損傷等
機械設備	給排水設備、空調・換気設備、衛生設備、消防設備の不具合等
電気設備	受変電設備、照明器具の不具合等

- 劣化度評価は、屋根・屋上、外壁は目視調査で、内部仕上げ、電気設備、機械設備は経過年数を考慮して調査し、A、B、C、Dの4段階で評価しています。
- 評価基準は、次に示すとおりです。

#### 【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生のみ)
D	早急に対応する必要がある。 (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し、施設運営に支障を与えている)等

#### 【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
A	20年未満
B	20年～40年
C	40年以上
D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

### 4.3 健全性及び劣化状況等の評価結果

- 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価結果は、以下に示すとおりです。
- 各建物の主な劣化状況は、表4-3-1から表4-3-6のとおりです。

表4-2 建物の健全性及び劣化状況等の評価結果

通し番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	西暦	和暦	築年数	耐震基準	劣化状況評価					健全度
											屋根屋上	外壁	内部	機械設備	電気設備	
1	津川小学校	管理教室棟	1-1, 1-2	RC	3	2,408	1980	S55	44	旧	C	C	B	C	C	53
2	津川小学校	教室棟	2, 2-1	RC	3	1,466	1980	S55	44	旧	C	C	B	C	C	53
3	津川小学校	食堂棟	3	S	1	37	1981	S56	43	旧	C	C	B	C	C	53
4	津川小学校	屋内運動場	5-1, 5-2	S	2	1,174	1982	S57	42	新	B	B	B	C	C	66
5	上川小学校	管理教室食堂棟	1, 1-3, 2-3	RC	3	1,537	1978	S53	46	旧	C	B	B	C	C	63
6	上川小学校	特別教室棟	2-6, 20	RC	3	816	2005	H17	19	新	B	B	B	A	A	81
7	上川小学校	屋内運動場	2-1, 2-2	S	1	576	1980	S55	44	旧	B	B	B	C	C	66
8	三川小学校	教室棟・教室管理棟 (1F, 2Fの一部)	18-1, 18-2	RC	3	1,092	1966	S41	58	旧	B	B	B	C	C	66
9	三川小学校	教室管理棟 (1F)	18-3, 19	S	2	163	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66
10	三川小学校	総合活動棟	20-1, 20-2, 21, 22	S	1	322	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66
11	阿賀津川中学校	管理教室棟	1, 2, 3, 4, 10	RC	3	4,116	1973	S48	51	旧	C	C	C	C	C	40
12	阿賀津川中学校	屋内運動場	14-1, 14-2	S	3	2,811	2007	H19	17	新	A	B	B	A	A	84
13	三川中学校	教室棟・教室管理棟 (2Fの一部, 3F)	1-1, 1-2	RC	3	2,040	1966	S41	58	旧	B	B	B	C	C	66
14	三川中学校	教室管理棟 (2F)	1-5, 9	S	2	163	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66
15	三川中学校	屋内運動場	2, 2-2, 2-3, 2-4, 4, 8	S	2	1,872	1968	S43	56	旧	B	C	B	C	C	56
16	津川学校給食センター	給食センター	1	RC	1	405	1980	S55	44	旧	C	C	C	C	C	40
17	鹿瀬学校給食センター	給食センター	1	W	1	298	1988	S63	36	新	C	C	C	B	B	49

※. 健全度の算定方法について (学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書より)

- ・健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。
- ・「①部位の評価点」と「②部位のコスト配分」を下図のように定め、「③健全度」を算定します。なお、「②部位のコスト配分」は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比率算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に按分しています。

①部位の評価点

評価点	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60.0

③健全度

$$\text{健全度} = \frac{\text{総和 (部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)}}{60}$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っています。  
 ※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示しています。

算出例 (津川小学校 管理教室棟)

部位	評価	評価点	配分	計算
1 屋根・屋上	C	40	5.1	204
2 外壁	C	40	17.2	688
3 内部仕上げ	B	75	22.4	1,680
4 電気設備	B	75	8.0	600
5 機械設備	B	75	7.3	548
計				3,720
健全度				62

表 4 - 3 - 1 津川小学校の主な劣化状況

<校舎>

部位	屋根・屋上	屋根・屋上
写真		
状況	泥等の堆積	泥等の堆積
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	内部	内部
写真		
状況	内壁塗装のひび割れ	ジョイント部材の腐食・漏水跡
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)
部位	内部	屋根・屋上
写真		
状況	床面の錆	内壁塗装の剥がれ
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)
部位	外壁	外壁
写真		
状況	軒天の一部部材の浮き	軒天塗装の浮き、漏水跡
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)

部位	屋根・屋上
写真	
状況	C (広範囲に劣化)
評価	堆積物による黒ずみ、防水塗装の劣化

<屋内体育館>

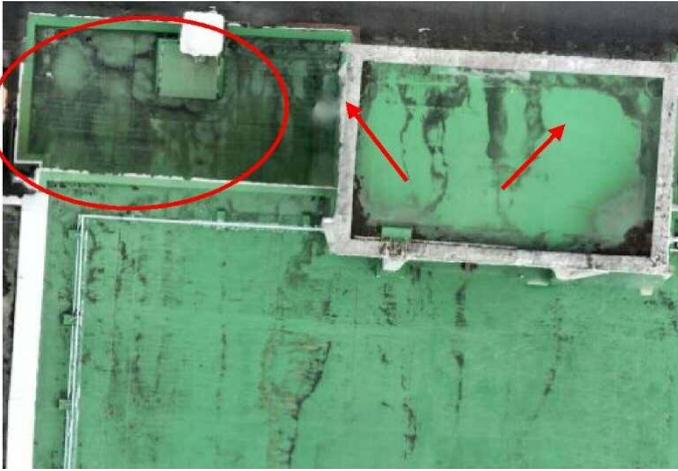
部位	内部	外壁
写真		
状況	床材塗装の部分的な剥がれ	タイルの一部が剥がれ
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)
部位	外壁	外壁
写真		
状況	軒天の一部で漏水跡	外壁塗装の剥がれ
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)

部位	屋根・屋上
写真	
状況	部分的に塗装の摩耗、泥等の堆積
評価	B（部分的に劣化）

表 4 - 3 - 2 上川小学校の主な劣化状況

<管理教室食堂棟>

部位	内部	屋根・屋上
写真		
状況	階段脇の一部にひび割れ	階段上床材のひび割れ、黒ずみ等
評価	B（部分的に劣化）	C（広範囲に劣化）
部位	屋根・屋上	内部
写真		
状況	広範囲に黒ずみ、防水塗装の摩耗	床材表面の摩耗
評価	C（広範囲に劣化）	B（部分的に劣化）

部位	外壁	外壁
写真		
状況	軒下の塗装の剥がれ	軒下の塗装の剥がれ
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)
部位	屋根・屋上	
写真		
状況	広範囲に黒ずみ、防水塗装の摩耗	
評価	C (広範囲に劣化)	

<特別教室棟>

部位	屋根・屋上	外壁
写真		
状況	階段上床材のひび割れ、黒ずみ等	階段手摺上部の黒ずみ、
評価	B (部分的に劣化)	B (部分的に劣化)

部位	外壁	外壁
写真		
状況	外壁の一部にひび割れ	外壁の一部で爆裂、白華現象
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）
部位	屋根・屋上	
写真		
状況	屋根部材の摩耗、排水口付近の泥の堆積（排水不良）	
評価	B（部分的に劣化）	

<体育館>

部位	屋根・屋上	外壁
写真		
状況	屋根部材の浮き	建具の錆
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）

部位	内部	内部
写真		
状況	部分的な塗装の剥がれ	壁材のひび割れ
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）
部位	屋根・屋上	
写真		
状況	屋根部材の摩耗・ひび割れ、全体的な黒ずみ	
評価	B（部分的に劣化）	

表 4 - 3 - 3 三川小中学校の主な劣化状況

<校舎>

部位	屋根・屋上	屋根・屋上
写真		
状況	バルコニーの泥の堆積	排水口付近の泥の堆積、排水不良
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）

部位	内部	内部
写真		
状況	壁材の破損	カーペットの一部の浮き、剥がれ
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）
部位	内部	内部
写真		
状況	天井部材の破損	窓枠のシーリングの劣化
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）
部位	内部	内部
写真		
状況	床材のひび割れ	壁材のひび割れ、塗装の剥がれ
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）

部位	屋根・屋上
写真	
状況	排水口付近の泥の堆積、排水不良、防水シートの摩耗
評価	B（部分的に劣化）

<屋内体育館>

部位	内部	内部
写真		
状況	天井部の白華、漏水跡	壁材塗装の剥がれ
評価	B（部分的に劣化）	B（部分的に劣化）
部位	外壁	内部
写真		
状況	外壁塗装の剥がれ落ち、白華等	外壁塗装の剥がれ落ち、柱のひび割れ
評価	C（広範囲に劣化）	C（広範囲に劣化）

部位	屋根・屋上
写真	
状況	部分的な塗装の剥がれ
評価	B（部分的に劣化）

表 4 - 3 - 4 阿賀津川中学校の主な劣化状況

<校舎>

部位	内部	屋根・屋上
写真		
状況	建具の劣化	全体的な黒ずみ、泥の堆積、排水不良
評価	C（広範囲に劣化）	C（広範囲に劣化）
部位	内部	内部
写真		
状況	建具の欠損	天井に漏水跡
評価	C（広範囲に劣化）	C（広範囲に劣化）

部位	内部	屋根・屋上
写真		
状況	天井と梁に白華	防水シートの摩耗、排水口に泥の堆積
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	外壁	外壁
写真		
状況	柱本体の剥離、ひび割れ	外壁梁の塗装剥離
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	外壁	外壁
写真		
状況	縦樋からの漏水、排水出口付近の黒ずみ	外壁のひび割れ、剥離、爆裂
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)

部位	屋根・屋上
写真	
状況	屋上全体で防水シートの摩耗、黒ずみ
評価	C (広範囲に劣化)

表 4-3-5 津川学校給食センターの主な劣化状況

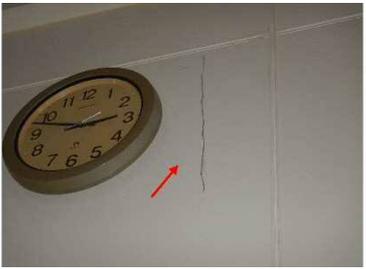
<学校給食センター>

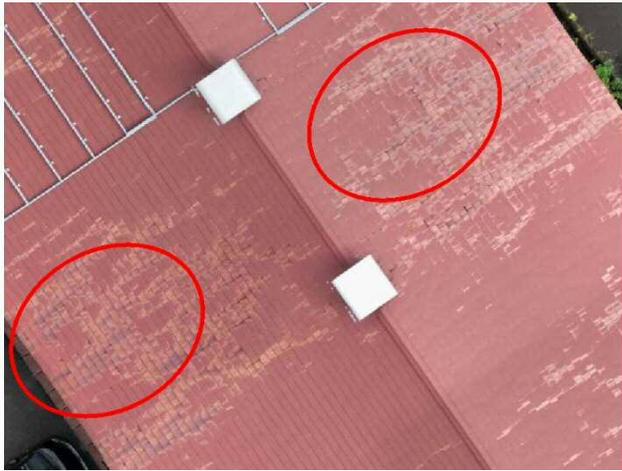
部位	外壁	屋根・屋上
写真		
状況	窓枠のシーリングが劣化	外壁に亀裂、塗装の剥離
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	外壁	内部
写真		
状況	軒下コーキングの劣化、外壁塗装の剥離	外壁基礎に爆裂
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)

部位	外壁	外壁
写真		
状況	軒下塗装の剥離	縦樋の錆による破損
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	内部	内部
写真		
状況	塗装の剥離、浮き	天井の白華、黒ずみ
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	屋根・屋上	
写真		
状況	排水口周辺の泥の堆積、防水塗装の摩耗、屋根部材の破損	
評価	C (広範囲に劣化)	

表 4-3-6 鹿瀬学校給食センターの主な劣化状況

<学校給食センター>

部位	外壁	外壁
写真		
状況	外壁の複数個所で爆裂	外壁基礎部分の塗装剥離、爆裂
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	内部	内部
写真		
状況	床材の剥離	壁材に亀裂
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)
部位	内部	外壁
写真		
状況	排水口付近に錆	外壁複数個所でシーリング材の劣化
評価	C (広範囲に劣化)	C (広範囲に劣化)

部位	屋根・屋上	
写真		
状況	屋根塗装の摩耗、漏水跡	
評価	C（広範囲に劣化）	

#### 4.4 学校施設の改修履歴等の状況

○ 学校施設台帳より、改修等の履歴をまとめると、以下のようにまとめられます。

表4-4 学校施設の改修等履歴の状況

通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積	西暦	和暦	築年数	耐震 基準	改修等履歴					
												西暦	和暦	事業内容	老朽	空調	トイレ
1	2401	津川小学校	管理教室棟	1-1, 1-2	RC	3	2,408	1980	S55	44	旧	2009	H21	地震補強			
												2009	H21	大規模改造	○		
												2018	H30	臨時特例交付金		○	
2	2401	津川小学校	教室棟	2, 2-1	RC	3	1,466	1980	S55	44	旧	2009	H21	地震補強			
												2009	H21	大規模改造	○		
3	2401	津川小学校	食堂棟	3	S	1	37	1981	S56	43	旧						
4	2401	津川小学校	屋内運動場	5-1, 5-2	S	2	1,174	1982	S57	42	新	2012	H24	大規模改造	○		
5	2449	上川小学校	管理教室食堂棟	1, 1-3, 2-3	RC	3	1,537	1978	S53	46	旧	2005	H17	大規模改造	○		
												2018	H30	臨時特例交付金		○	
6	2449	上川小学校	特別教室棟	2-6, 20	RC	3	816	2005	H17	19	新						
7	2449	上川小学校	屋内運動場	2-1, 2-2	S	1	576	1980	S55	44	旧	2009	H21	地震補強			
												2009	H21	大規模改造	○		
8	2476	三川小学校	教室棟・教室管理棟 (1F, 2Fの一部)	18-1, 18-2	RC	3	1,092	1966	S41	58	旧	2004	H16	耐震補強			
												2022	R4	大規模改造		○	○
												2023	R5	大規模改造		○	
9	2476	三川小学校	教室管理棟 (1F)	18-3, 19	S	2	163	2004	H16	20	新						
10	2476	三川小学校	総合活動棟	20-1, 20-2, 21, 22	S	1	322	2004	H16	20	新						
11	4402	阿賀津川中学校	管理教室棟	1, 2, 3, 4, 10	RC	3	4,116	1973	S48	51	旧	1998	H10	地震補強			
												1999	H11	地震補強			
												2021	R3	大規模改造		○	
												2022	R4	大規模改造			○
												2023	R5	大規模改造		○	
12	4402	阿賀津川中学校	屋内運動場	14-1, 14-2	S	3	2,811	2007	H19	17	新						
13	4471	三川中学校	教室棟・教室管理棟 (2Fの一部, 3F)	1-1, 1-2	RC	3	2,040	1966	S41	58	旧	2004	H16	耐震補強			
												2022	R4	大規模改造		○	
												2023	R5	大規模改造		○	
14	4471	三川中学校	教室管理棟 (2F)	1-5, 9	S	2	163	2004	H16	20	新	2023	R5	大規模改造		○	
15	4471	三川中学校	屋内運動場	2, 2-2, 2-3, 2-4, 4, 8	S	2	1,872	1968	S43	56	旧	2008	H20	耐震補強			
												2008	H20	大規模改造	○		
												2022	R4	大規模改造		○	
												2023	R5	大規模改造		○	
16	K041	津川学校給食センター	給食センター	1	RC	1	405	1980	S55	44	旧						
17	K075	鹿瀬学校給食センター	給食センター	1	W	1	298	1988	S63	36	新						

## 4.5 劣化を踏まえた課題の整理

- 劣化状況を踏まえた課題を整理します。

### **課題1 屋根・外壁等、重要部位への早急な修繕**

- 建物の屋根・屋上や外壁の劣化は、建物の躯体を維持していくうえで重要な部位であり、雨漏りや漏水が発生すると、劣化を早めてしまう恐れがあります。
- 今回の調査において、一部の学校校舎の屋根・屋上や外壁、給食センターの外壁などでC評価となっています。文部科学省が発行している「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」では、「D評価の部位修繕は5年以内、C評価の部位修繕は10年以内を実施する」との考え方が示されています。
- そのため、C評価のある建物については、将来的な利用計画を考慮しつつ、屋根・屋上と外壁の修繕等を早めに取り組む必要があります。

### **課題2 内部仕上の改善**

- 通常、内部仕上については、屋根・屋上、外壁に比べると、劣化は進みにくい状況が見受けられますが、長期間にわたり使用し続けることによる経年劣化は進んでいくため、建具の傷や不具合は徐々に進行し、やがて不具合が生じてきます。
- 三川小学校と三川中学校（同一建物）で内部仕上がC評価となっており、早めの改修等が求められます。ただし、屋根・屋上や外壁のような劣化の促進につながる可能性は低いので、児童・生徒の安全性に差支えがある状況ではない場合には、改修等の先送りも可能となりますが、できるだけ早めに検討すべきと判断されます。

### **課題3 電気設備・機械設備の定期的な点検の実施**

- 電気設備と機械設備は、今回の劣化調査では経年劣化によって判断しています。これらの設備が故障して使えなくなった場合には、学校として機能しなくなるばかりか、児童・生徒たちに危険が及ぶ可能性もあります。
- そのため、日常より法令に基づく点検を実施して、機能不全が起きないようにメンテナンスを実施していくことが必要です。特に、C評価を受けている建物については、注意が必要です。

## 第5章 長寿命化による維持・更新コストの把握

- 文部科学省の試算ソフト（令和5年3月）を活用し、従来型と長寿命化型の維持・更新コストを算出します。

### 5.1 将来の維持・更新コスト

#### (1) 従来型のコスト

- 従来型は、すべての建物を建築後50年で改築した場合を想定した試算です。
- 従来型の維持・更新コストは、今後40年間で約118億円、年平均約2.9億円となります。
- 過去5年間の施設関連経費の平均は約1.1億円で、1年あたり約2.6倍の費用がかかることとなります。特に直近10年間には、改築などの費用が見込まれます。

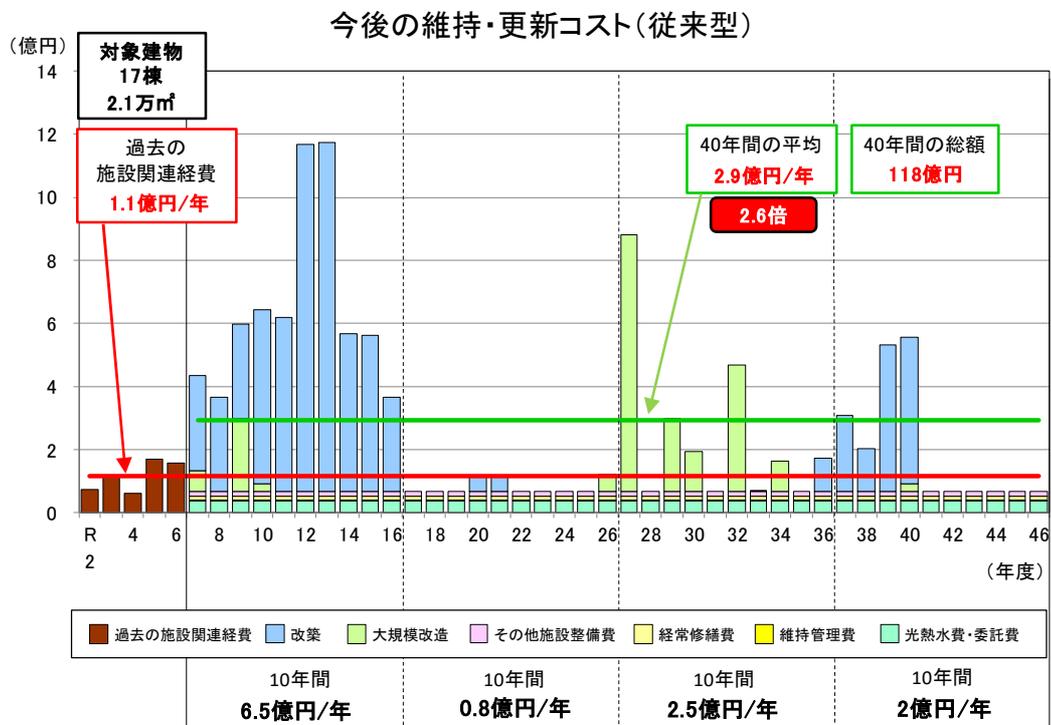


図5-1 今後の維持・更新コスト（従来型）

#### 【コスト試算条件】

- ・ 基準年度：2024年
- ・ 試算期間：基準年の翌年から40年間
- ・ 改築：更新周期50年  
改築単価 330,000円/㎡（公共施設等更新費用試算ソフト仕様書）  
工事期間2年  
実施年数より古い建物（築50年以上）の改修は10年以内を実施
- ・ 大規模改造：実施年数20年周期  
工事期間1年

## (2) 長寿命化型のコスト

- 今後の長寿命化に関する考え方は、校舎・屋内運動場等については、原則として「長寿命化」、学校給食施設については、移転・集約等の構想に基づいて、「要調査」として扱うものとします。なお、「要調査」の建物については、建築後 50 年で改築する場合を想定します。
- 長寿命化を進める建物は、建築後 50 年で長寿命化改修し 85 年まで使用した場合を想定した試算です。
- 長寿命化型の維持・更新コストは、40 年間で約 124 億円、年平均約 3.0 億円となります。
- 過去 10 年間の施設関連経費の平均は約 1.0 億円で、1 年あたり約 3.24 倍の費用がかかることとなります。令和 16 年頃までは、長寿命化改修や改築が集中するため、多額の費用がかかることとなります。
- 従来型の維持・更新コストと比較すると、40 年間で約 6 億円の超過となり、年平均費用も従来型と同等の約 1 億円が毎年見込まれます。

表 5-1 長寿命化判定の結果

通し 番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床 面積 (㎡)	西暦	和暦	築年 数	耐震 基準	劣化状況評価						長寿命化 判定
											屋根 屋上	外壁	内部	機械 設備	電気 設備	健全 度	
1	津川小学校	管理教室棟	1-1, 1-2	RC	3	2,408	1980	S55	44	旧	C	C	B	C	C	53	長寿命化
2	津川小学校	教室棟	2, 2-1	RC	3	1,466	1980	S55	44	旧	C	C	B	C	C	53	長寿命化
3	津川小学校	食堂棟	3	S	1	37	1981	S56	43	旧	C	C	B	C	C	53	長寿命化
4	津川小学校	屋内運動場	5-1, 5-2	S	2	1,174	1982	S57	42	新	B	B	B	C	C	66	長寿命化
5	上川小学校	管理教室食堂棟	1, 1-3, 2-3	RC	3	1,537	1978	S53	46	旧	C	B	B	C	C	63	長寿命化
6	上川小学校	特別教室棟	2-6, 20	RC	3	816	2005	H17	19	新	B	B	B	A	A	81	長寿命化
7	上川小学校	屋内運動場	2-1, 2-2	S	1	576	1980	S55	44	旧	B	B	B	C	C	66	長寿命化
8	三川小学校	教室棟・教室管理棟 (1F, 2Fの一部)	18-1, 18-2	RC	3	1,092	1966	S41	58	旧	B	B	B	C	C	66	長寿命化
9	三川小学校	教室管理棟 (1F)	18-3, 19	S	2	163	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66	長寿命化
10	三川小学校	総合活動棟	20-1, 20- 2, 21, 22	S	1	322	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66	長寿命化
11	阿賀津川中学校	管理教室棟	1, 2, 3, 4, 10	RC	3	4,116	1973	S48	51	旧	C	C	C	C	C	40	長寿命化
12	阿賀津川中学校	屋内運動場	14-1, 14-2	S	3	2,811	2007	H19	17	新	A	B	B	A	A	84	長寿命化
13	三川中学校	教室棟・教室管理棟 (2Fの一部, 3F)	1-1, 1-2	RC	3	2,040	1966	S41	58	旧	B	B	B	C	C	66	長寿命化
14	三川中学校	教室管理棟 (2F)	1-5, 9	S	2	163	2004	H16	20	新	B	B	B	C	C	66	長寿命化
15	三川中学校	屋内運動場	2, 2-2, 2-3 2-4, 4, 8	S	2	1,872	1968	S43	56	旧	B	C	B	C	C	56	長寿命化
16	津川学校給食 センター	給食センター	1	RC	1	405	1980	S55	44	旧	C	C	C	C	C	40	要調査
17	鹿瀬学校給食 センター	給食センター	1	W	1	298	1988	S63	36	新	C	C	C	B	B	49	要調整

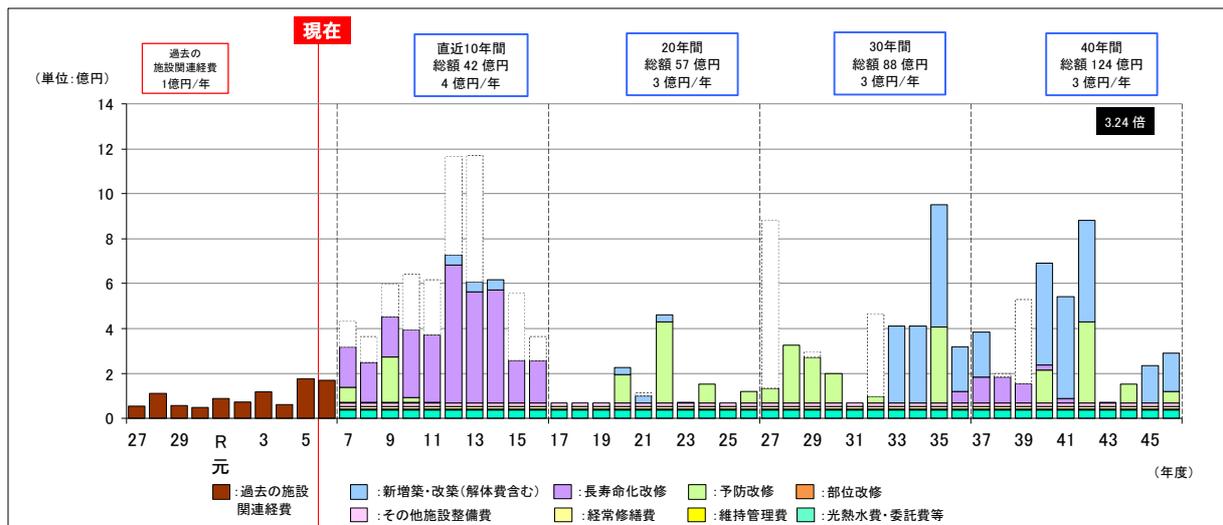


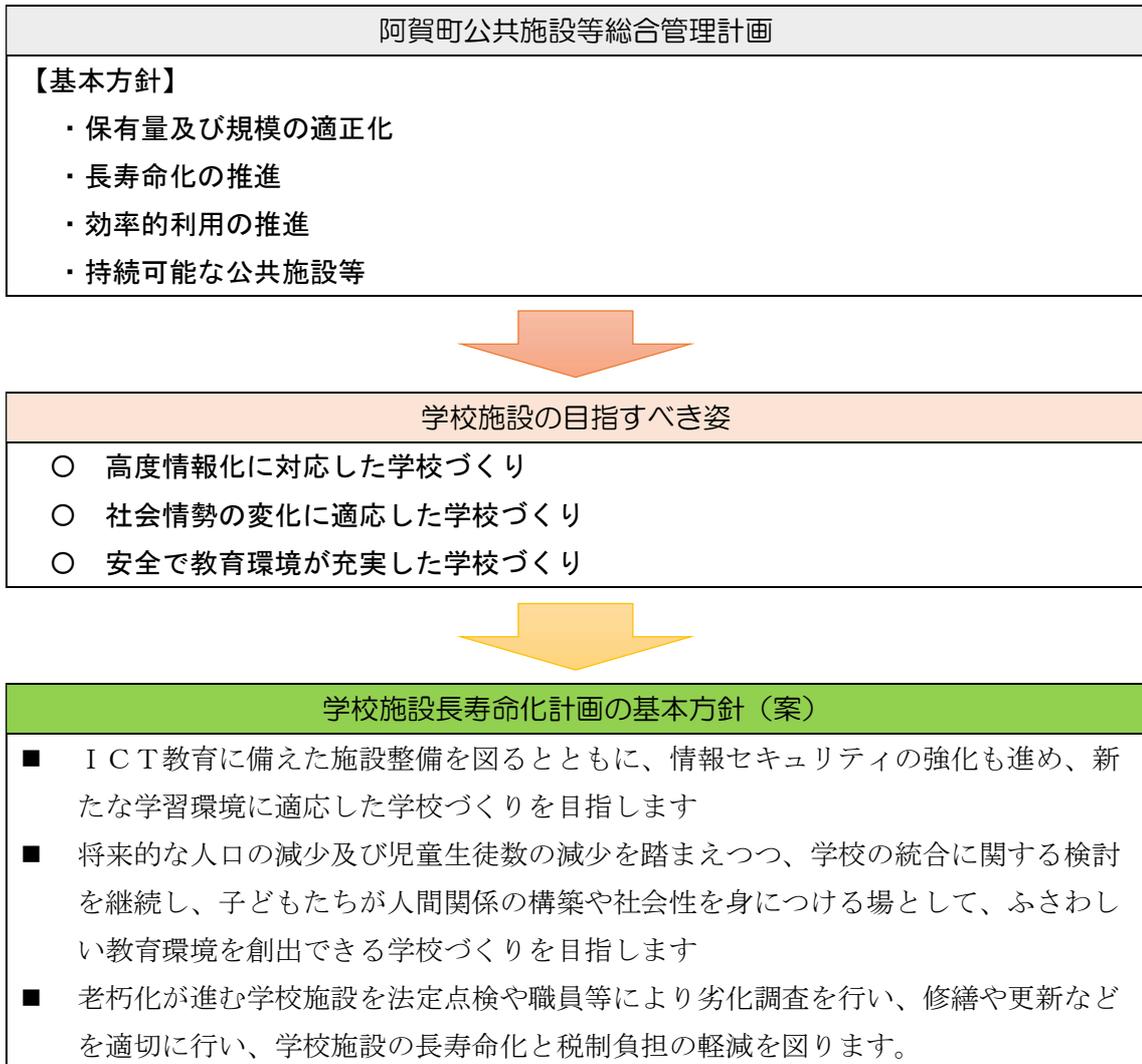
図5-2 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

＜グラフの年表示＞	
基準年度	2024
試算期間	基準年の翌年度から40年間
和暦	
<p>※1 試算上の区分(改築、長寿命)ごとに更新周期を設定する。            試算上の区分が未記入の場合は「改築」と同条件で算出する。</p>	
改築	
更新周期	<改築、要調査> 50年 <長寿命> ※1 85年 工事期間 2年 実施年数より古い建物の改築を 10年以内に実施
長寿命化改修	
改修周期	<長寿命> 50年 工事期間 2年 実施年数より古い建物の改修を 10年以内に実施
大規模改造	
改修周期	20年周期 (ただし、改築、長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない)
<p>※2 躯体以外の劣化状況が未記入の場合は、部位修繕は算出されない。</p>	
部位修繕	
D評価	今後 5年以内に部位修繕を実施
C評価	今後 10年以内に部位修繕を実施
(ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く)	
A評価	今後 10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

## 第6章 学校施設整備の基本的な方針等

### 6.1 学校施設の長寿命化計画の基本方針

- 総合管理計画における基本方針及び学校施設の目指すべき姿を踏まえ、学校施設の長寿命化計画の基本方針を以下のとおり定めます。



### 6.2 学校施設の規模・配置計画等の方針

- 人口の減少、少子高齢化が進む中で、子どもたちの良好な学習環境の提供を持続するため、原則として既存の学校施設を維持していきます。
- 今後、児童生徒数が減少し、小規模化が顕著となる学校については、学校や地域の実情等を総合的に勘案しながら、学校規模及び配置の適正化を図ります。
- 学校給食調理場は、現在2箇所で稼働していますが老朽化が進み、機能面でも不足する点が多いことから、移転集約を検討します。

## 6.3 改修等の基本的な方針

### (1) 長寿命化及び予防保全の方針

- 学校施設の実態を踏まえつつ、目指すべき姿を実現していくための改修等の基本的な方針として、長寿命化や予防保全の方針、目標使用年数、改修周期等を示します。

#### ① 長寿命化の方針

- 改築を前提とした老朽化対策から計画的な維持保全を行い、長寿命化を図る施設を設定し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を図ります。
- 計画対象施設のうち、今後 30 年以上使い続ける建物は、長寿命化改修の実施を検討します。
- 長寿命化を図る施設については、大規模改造（機能回復）、長寿命化改修（機能向上）の実施により、経年の機能や性能の劣化を抑制するとともに、省エネルギー化やバリアフリー化等の社会的要求への対応をあわせて検討します。

#### ② 予防保全の方針

- 建物をできる限り長く使うため、適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのためには、損傷や故障の発生に伴い修繕を行う「事後保全」ではなく、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで、機能・性能の保持・回復を図る「予防保全」の維持管理方式を導入します。
- 「予防保全」を行うことで、突発的な事故や費用発生を減少させ、施設の不具合による被害リスクの緩和や、改修や維持管理に係る費用を平準化し、中長期的なトータルコストを低減することに努めます。

### (2) 目標使用年数、改修周期の設定

#### ① 目標使用年数の設定

- 「建築物の耐久計画に関する考え方（社団法人日本建築学会）」によると、鉄筋コンクリート造の学校の場合、望ましい目標耐用年数の範囲は 50～80 年であるものの、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には 80～100 年程度使用できるとされています。
- 本計画においては、上記考え方に基づき目標使用年数を 85 年に設定します。

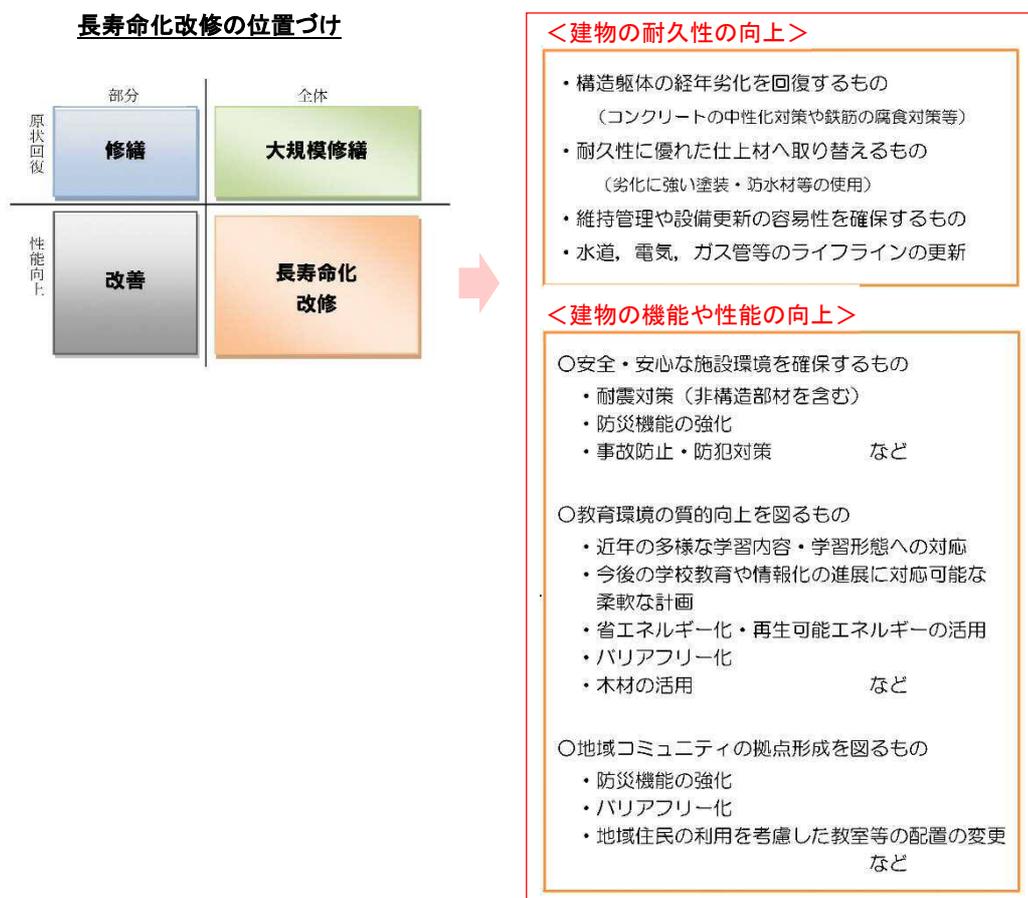
#### ② 改修周期の設定

- 長寿命化を図る建物については、機能・性能の低下を防ぎ、建物を良い状態に保ちながら目標使用年数まで使用するために、適宜、大規模改造（原状回復等）や長寿命化改修（機能向上等）を実施します。
- 長寿命化改修を実施する場合は、基本的に建築後 45～50 年頃に実施して、目標使用年数までの使用を目指します。

## 第7章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 7.1 改修等の整備水準

- 本町では、「第6章 学校施設整備の基本的な方針等」で示したように、快適性、安全・安心、持続可能などの観点から、適切な時期に長寿命化改修を実施し、目標使用年数を概ね85年とした施設の長寿命化を図ります。
- 長寿命化改修では、躯体の経年劣化の回復やライフラインの更新等といった建物の建築当初の水準に戻すだけでなく、省エネルギー化や学習環境の向上など、現在の社会的ニーズに対応するために基本的性能の向上を図ります。



※ 「学校施設の長寿命化改修の手引(H26.1)」文部科学省より抜粋

## (1) 建物の耐久性の向上

- 長寿命化改修の実施にあたっては、コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策を行うことで、構造躯体における経年劣化の回復、劣化に強い塗装・防水材等の使用を通じ、耐久性に優れた仕上げ材への取り替えを進めていきます。
- また、維持管理や設備更新が容易になるよう、水道、電気、ガス管等のライフラインの更新も進め、建物の耐久性の向上を図っていきます。
- その他、ライフサイクルコストの向上や建物のエネルギー効率の向上、環境負荷低減の観点から、それぞれの部位ごとに耐久性の向上を図っていきます。

表 7-1 建物の部位別耐久性向上策

部 位	耐久性の向上策
屋根・屋上	[防水材の設置] ・ 躯体や建物内部への漏水を防止し、建物の劣化を抑えるために、防水材を全面的に設置します ・ 防水材の材料は、今後の供用年数を考慮し、塗膜防水、シート防水及びアスファルト防水等を想定します
外壁・内部仕上	[壁面材による被覆] ・ ひび割れ、浮き及び剥落等の重度な劣化を未然に防止するため、壁面材で部分的又は全面的に被覆し、躯体の劣化現象の進行を遅らせます ・ 壁面材の材料は、塗膜仕上、モルタル仕上及びコンクリート打放し仕上等を想定します
電気設備 機械設備	[物理的耐用年数の長い機器の選定] ・ 設備機器の老朽化対策では、日常点検、消耗部品の定期交換によって故障を未然に防ぐとともに、必要に応じて物理的耐用年数の長い機器を選定します

## (2) 建物の機能や性能の向上

- 学校施設においては、耐震対策や防災機能の強化、事故防止・防犯対策などを通じ、安全・安心な施設環境の確保を進めていきます。
- また、近年の ICT への対応など新たな学習内容や学習形態に対応できる施設づくりを進めるとともに、省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用や、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を図ることで、子どもたちの教育環境の向上に努めます。

## 7.2 維持管理の項目・手法等

- 長寿命化を図るためには、計画的に改修工事などを行うだけでなく、日常的・定期的  
に施設の点検や清掃、情報管理等を行う必要があります。そのため、建築基準法第12条  
に基づく点検、電気設備や機械設備等の定期点検を実施するとともに、建物の劣化状況  
調査も定期的の実施します。
- 点検等の結果や劣化状況調査結果に基づいて、対象部位ごとに予防保全、事後保全の  
対処方法を決定し、計画的に修繕を行います。
- 劣化状況調査や点検等の結果及び修繕履歴等については、町で保有する竣工図等の各  
種データと合わせて蓄積し、今後の長寿命化改修時期の検討に活用します。
- 建物は、耐用年数が異なる様々な部位・設備で構成されているため、劣化した場合の  
安全性、執務等の施設機能への影響等を踏まえ、下表の部位・設備ごとの対応手法を基  
本として保全します。

表7-2 対象部位別の対応手法

部位・設備	劣化の考え方	保全 手法	主な内容
屋根・屋上	○劣化が進めば、防水効果が薄れて漏水 を引き起こし、構造躯体の劣化や室内 の仕上げ材及び設備機器の損傷を招 く ○構造躯体の脆弱化を予防するため、漏 水を未然に防ぐなどの早期の対応が 求められる	予防 保全	○防水材、塗装、シーリング 材の定期的な更新など
		事後 保全	○破損箇所の修繕など
外壁・ 外部建具	○劣化が進めば、防水効果が薄れて漏水 を引き起こし、構造躯体の劣化や室内 の仕上げ材及び設備機器の損傷を招 く ○タイル等の仕上材の落下により、人的 被害が発生する危険性が高まる	予防 保全	○塗装、シーリング材の定 期的な更新など ○タイル等仕上げ材の剥離 箇所の定期的な調査と修 繕など
		事後 保全	○破損箇所の修繕など
内部	○美観への影響等を除けば、破損等が生 じてからの対応でも大きな支障がな い	事後 保全	○破損箇所の修繕など
電気設備 ・機械設備	○適切な維持管理が行われていないと 機能低下・機能停止による施設機能が 停止する等の深刻な運営上の影響が ある ○各点検等の義務付け、厳守すべき保 安規程、清掃の義務付け等がある	予防 保全	○点検・部品交換、オイル交 換、機器交換など

## 第8章 長寿命化の実施計画

### 8.1 改修等の優先順位づけと実施計画

#### (1) 改修等の優先順位づけ

##### ① 長寿命化改修、大規模改造、改築の考え方

- 学校施設の改修等の考え方は、建築年度の古い順に劣化状況を勘案して検討します。
- 限りある予算で対策を講じる必要があるため、改修等は校舎、屋内運動場、学校給食調理場で実施することを基本とします。

##### ② 部位・設備に関する考え方

- 劣化が著しい部位・設備がある場合は、修繕等を優先的に実施します。



評価	基準	修繕等の優先度
A	おおむね良好	低
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）	普通
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）	優先
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し、施設運営に支障を与えている）等	最優先

図8-1 部位・設備別修繕等の優先度の考え方

#### (2) 学校施設の実施計画

- 学校施設の今後の学校施設の実施計画は、表8-1に示すとおりです。
- 今後、2025（令和7）から2036（令和18）年度にかけて、阿賀津川中学校、三川小中学校、津川小学校、上川小学校の順番で、各学校それぞれ3年かけて長寿命化改修を順次実施します。
- 直近の2025（令和7）年度から2027（令和9）年度に、阿賀津川中学校の長寿命化改修を実施します。
- 2028（令和10）年度以降は、事業費単価を設定し延床面積に乗じて算定しています。改修の順番は最初の2年間で校舎、最後の1年で屋内体育館を想定しています。
- 長寿命化改修の事業費単価は、校舎240,000円/m<sup>2</sup>、屋内体育館153,000円/m<sup>2</sup>を想定しています。なお、想定額は、校舎が阿賀津川中学校の改修工事費を参考に設定し、屋内体育館が文部科学省の体育館改修事例集による実績を参考に設定しています。
- 津川及び鹿瀬の学校給食センターは、老朽化が著しく維持管理等に支障をきたしているとともに耐震性に問題がある施設でもあることから、移転集約により新たに整備します。目安としては、2028（令和10）年度の整備を目指します。

表 8-1 学校施設の今後の実施計画（ロードマップ）

(百万円)

事業名称	2025		2026		2027		2028		2029		2030	
	R7		R8		R9		R10		R11		R12	
	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
施設整備費												
新築・改築事業							学校給食センター (新築・移転集約)	1,045.0				
長寿命化改修	阿賀津川中学校 (長寿命化改修)	350.0	阿賀津川中学校 (長寿命化改修)	430.0	阿賀津川中学校 (長寿命化改修)	200.0	三川小中学校 (長寿命化改修)	751.7	三川小中学校 (長寿命化改修)	155.5	三川小中学校 (長寿命化改修)	278.6
その他施設整備費												
維持管理費	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7
光熱水費・委託費	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7
経常修繕費	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1
合計		401.5		481.5		251.5		1,848.2		207.0		330.1
事業名称	2031		2032		2033		2034		2035		2036	
	R13		R14		R15		R16		R17		R18	
	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
施設整備費												
新築・改築事業												
長寿命化改修	津川小学校 (長寿命化改修)	577.9	津川小学校 (長寿命化改修)	360.7	津川小学校 (長寿命化改修)	179.6	上川小学校 (長寿命化改修)	368.6	上川小学校 (長寿命化改修)	196.1	上川小学校 (長寿命化改修)	88.1
その他施設整備費												
維持管理費	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7	学校施設全体	4.7
光熱水費・委託費	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7	学校施設全体	36.7
経常修繕費	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1	学校施設全体	10.1
合計		629.4		412.2		231.1		420.1		247.6		139.6

※ 維持管理費、光熱水費・委託費、経常修繕費は、過去10年間の平均値を想定  
 ※ R7～9の阿賀津川中学校の事業費は、設計に基づく工事費を表示  
 ※ R10～18の各学校の長寿命化改修事業費は、校舎240,000円/㎡（阿賀津川中学校の改修工事費を参考に設定）、  
 屋内体育館153,000円/㎡（文部科学省改修事例集を参考に設定）で算定

## 8.2 ロードマップを反映した長寿命化のコストの見通しと効果

- 文部科学省の試算ソフトの試算結果を比較すると、40年間のコストは約6億円、1年あたり約0.1億円の費用増大が見込まれています。増大する要因としては、建築年数が40年以上経過している建物が多い場合にあることで、仮に長寿命化改修を実施しても今後の40年間に改築時期を迎えてしまい、長寿命化改修と改築を40年の間に行うこととなるため、費用の増大が発生することになります。
- 本計画においては、表8-1に示すとおり、当面の10年間で各学校の長寿命化改修を実施し、改修後おおむね30年間使用し、その後改築することを前提に算定しました。また、改修後おおむね20年後に予防保全改修を実施する想定で算定しました。
- 給食センターについては、移転集約等により新たな給食センターを建設し、おおむね20年後に予防保全改修、おおむね40年後に長寿命化改修を実施する想定で算定しました。
- 上記算定条件を踏まえたロードマップを反映した長寿命化のコストは、図8-1に示す通りとなり、40年間の総額は139億円、1年あたり約4.0億円となり、文部科学省試算ソフトの長寿命化計画よりも40年間の総額で15億円、1年あたり約1.0億円増加する見込みとなり、従来型よりも40年間の総額で約21億円、1年あたりで約1.1億円上回る見込みとなりました。
- 今回の計画見直しでは、各学校の長寿命化を図り、引き続き30年間使用する前提で算定しましたが、今後予算軽減に向けた検討すべき方向性としては、各学校の校舎等が建築後40年を超えており、中には60年に迫る建物も見られることから、長寿命化

を行わずに改築を実施して、現在から30年後の改築費用を先送りする対応も考えられます。

- もうひとつの案としては、長寿命化改修後30年間使い続ける想定を40年以上使い続けて、現在から30年後の改築費用を先送りすることも考えられます。

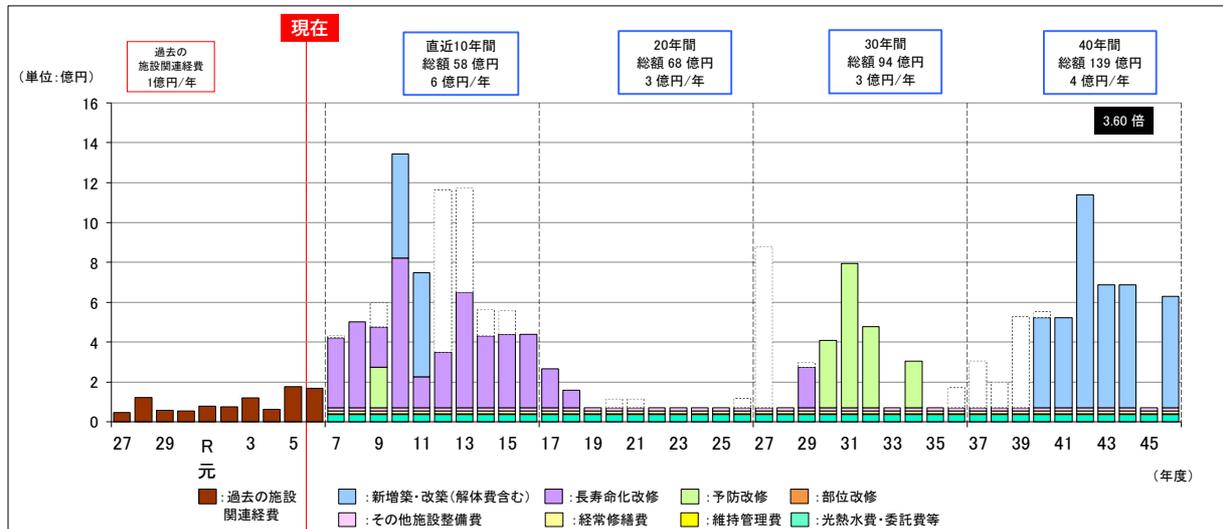


図8-1 今後の維持・更新コスト (ロードマップを考慮した長寿命化型)

《 算定条件 》

- ※1. 各学校とも長寿命化改修後おおむね30年間使い続けることを想定
- ※2. 長寿命化改修からおおむね20年で予防改修を実施することを想定
- ※3. 給食センターについては、令和10年度に新築することを想定
- ※4. その他施設整備費、経常修繕費、維持管理費、光熱水費・委託費等については過去10年間の平均値を想定
- ※5. 算定上の工事期間は、新増築・改築は3年間、長寿命化改修は3年間(阿賀津川中学校屋内体育館は1年間)、予防改修は1年間として算定

## 第9章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 9.1 情報基盤の整備と活用

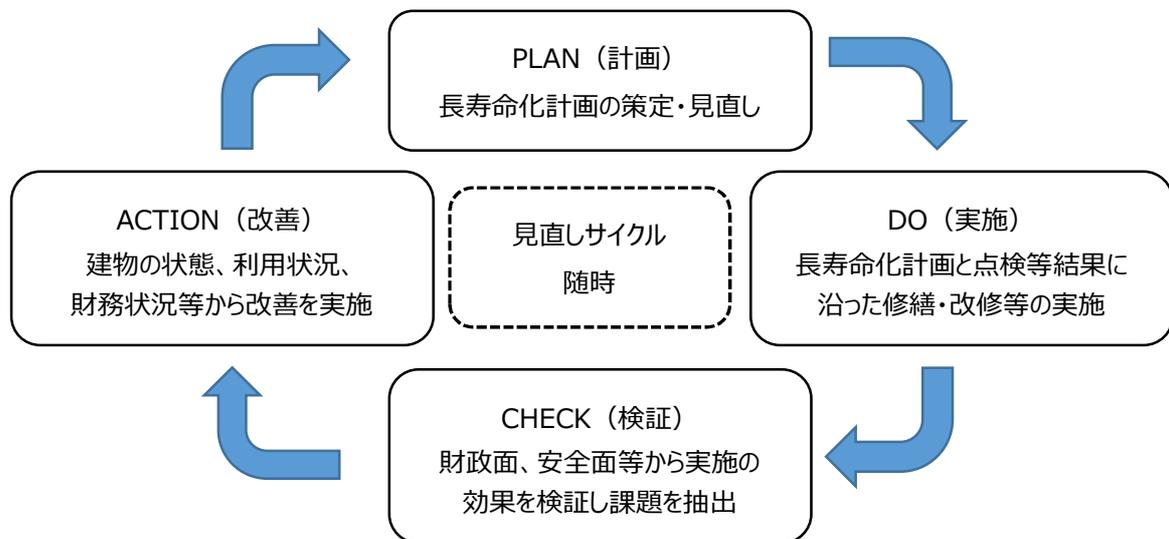
- 施設の基本情報、光熱水費、修繕履歴等の情報をデータベースに整理して、一元管理することにより、計画的かつ効率的な維持管理を推進します。

### 9.2 推進体制等の整備

- 計画を継続的に実施するために、教育委員会を中心に関係課と連携し、全庁的な体制で取り組んでいきます。
- 学校施設の維持管理については、各学校の職員による劣化状況調査や法定点検による報告書を活用して、不具合の早期発見と修繕対応を図ります。

### 9.3 フォローアップ

- 計画の進捗状況を把握・評価し、状況に応じて適切に改善を行います。
- PDCA サイクルの考え方に基づいて計画の推進に取り組みます。特に、計画の見直しに際しては、長寿命化の実施状況、老朽化の状況の評価し、再検討を行います。



主な用語の定義

長寿命化	建物を将来にわたって長く使い続けるため、耐用年数を延ばすこと。
保全	建物や設備が完成してから取り壊すまでの間、その性能や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けること。保全のための手段として、点検・診断、改修等がある。
予防保全	損傷が軽微である早期段階から、機能・性能の保持・回復を図るために修繕等を行う、予防的な保全のこと。なお、あらかじめ周期を決めて計画的に修繕等を行う保全のことを「計画保全」という。
事後保全	老朽化による不具合が生じた後に修繕等を行う、事後的な保全のこと。
維持管理	建物や設備の性能や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けるため、建物や設備の点検・診断を行い、必要に応じて建物の改修や設備の更新を行うこと。
修繕	経年劣化した建物や設備の部分を、既存のものとおおむね同じ位置におおむね同じ材料、形状、寸法のものを用いて原状回復を図ること。
更新	既存の建物や設備を新しく改めること。建物の場合は、「改築」と同義ととらえてよい。
改築	建物を建て替えること。
改修	経年劣化した建物の部分又は全体の原状回復を図る工事や、建物の機能・性能を求められる水準まで引き上げる工事を行うこと。
長寿命化改修	長寿命化を行うために、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を求められる水準まで引き上げる改修を行うこと。

**阿賀町学校施設長寿命化計画**

**令和3年3月（策定）**

**令和7年3月（改定）**

**阿賀町 教育委員会 学校教育課**

**〒959-4392 新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931-1**

**TEL : 0254-92-2561**